

町民アンケート結果報告書

岐 阜 県 御 嵩 町

目 次

1. 調査概要.....	1
(1) 目 的.....	1
(2) 調査方針.....	1
(3) 調査項目.....	1
(4) スケジュール.....	2
2. 調査方法.....	3
(1) 一般.....	3
(2) 高校生.....	3
3. 回答数.....	3
4. 回答者の属性.....	4
(1) 一般.....	4
1) 性別 (問 1).....	4
2) 年齢 (問 2).....	4
3) 職業 (問 3).....	4
4) 勤務(通学)先 (問 4).....	4
5) 居住地区 (問 5).....	5
6) 居住年数 (問 6).....	5
(2) 高校生.....	6
1) 性別 (問 1).....	6
2) 学年 (問 2).....	6
3) 居住地 (問 5).....	6
4) 居住年数 (問 6).....	7
5. 調査結果の概要.....	7
(1) 御嵩町の住みやすさについて (問 7、問 11).....	7
(2) 自慢できること (問 8、問 9、問 10).....	9
(3) 定住の意向 (問 12).....	10
(4) 分野別の満足度・重要度 (問 13、問 14).....	11
(5) 日常生活や地域で取り組んでいること (問 15).....	13
(6) 人口減少に関連した設問.....	14
1) 子どもや若い人たちにとって住み続ける魅力 (問 16).....	14
2) ほかの町の人から見た御嵩町 (問 17).....	15
3) 定住や移住促進のための方策 (問 18).....	16
4) 若い人たちが暮らしやすく、夢が持てるために必要なこと (問 19).....	17
(7) 「10年後」のまちの将来像.....	18
1) 今後 10年間のまちづくりで重要なこと (問 20).....	18
2) 若い人たちが生き生きと活動できる環境の実現 (問 21).....	19
3) 安心して子どもを産み、子育てできる環境の整備 (問 22).....	20
(8) SDG s について.....	21
1) SDG s を知っているか (問 23).....	21

2) SDGに関心があるか (問 24)	21
3) 17のゴールのうち関心があるもの (問 25)	22
4) 購入活動の中で、製造者や商品・サービス自体のSDGsを重視するか (問 26)	23
5) 御嵩町内 (町役場、町内企業等) のSDGs推進 (問 27)	23
6) 御嵩町が積極的に推進すべきゴール (問 28)	24
(9) 自由回答 (問 29)	25
1) 一般 (回答者数 297名)	25
2) 高校生 (回答者数 237名)	25
6. 過去のアンケートとの比較	25
(1) 御嵩町の住みよさについて (問 7、問 11)	26
(2) 自慢できること (問 8、問 9、問 10)	27
(3) 定住の意向 (問 12)	27
(4) 分野別の満足度・重要度 (問 13)	28
(5) 日常生活や地域で取り組んでいること (問 15)	29
(6) 子どもや若い人たちにとって住み続ける魅力 (問 16)	30
(7) ほかの町の人から見た御嵩町 (問 17)	30
(8) 定住や移住促進のための方策 (問 18)	31
(9) 若い人たちが暮らしやすく、夢が持てるために必要なこと (問 19)	32

1. 調査概要

(1) 目的

町民の意向把握、御嵩町第6次総合計画策定の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査方針

本調査では、町民の意向の経年的変化の把握に配慮し、第5次総合計画（以下「現行計画」という。）の策定にあたり実施したアンケートにおける設問を基本とする。また、SDGs推進計画の策定及び現行計画の総括に必要な設問を含む。

回答は、郵便によるアンケート用紙の返送のほか、インターネットからも受け付けた。

(3) 調査項目

調査項目は表1のとおり。

表1 調査項目

番号	設問項目	結果の活用
(1) 回答者属性		
問1	性別	クロス集計のキー
問2	年齢	クロス集計のキー
問3	職業	就業状況確認
問4	通勤通学先所在地	就業状況確認
問5	居住地区	クロス集計のキー
問6	居住年数	クロス集計のキー
(2) 御嵩町のイメージ		
問7	住みやすいまちと思うか	前回との比較評価
問8	ほかの町の人に自慢するか	前回との比較評価
問9	自慢できること	シビックプライドを設問
問10	何があれば自慢できるか	シビックプライドを設問
問11	住みやすさの項目評価	前回との比較評価
問12	住み続けたいと思うか	前回との比較評価
(3) 町の施策全般		
問13	施策別の満足度と今後の重要度	前回との比較評価
問14	特に力を入れるべき項目	前回との比較評価
(4) 日ごろの生活や活動などについて		
問15	日常生活や地域活動等への参加状況	前回との比較評価
(5) 人口減少に関連した事項について		
問16	子どもや若者に住み続ける魅力があるか	前回との比較評価
問17	ほかの町の人から見て住みたい町か	前回との比較評価
問18	人口の維持・増加のため力を入れるべき項目	前回との比較評価
問19	高校生などが夢を持てるようにするための項目	前回との比較評価
(6) 「10年後」のまちの将来像について		
問20	御嵩町の将来像の例示と重要度	施策の経年変化に合わせて選択肢を調整
問21	若い人が生き生きと活動できる環境づくり	若年層の人口維持の施策検討
問22	安心して子育てできる環境整備	若年層の人口維持の施策検討
(7) SDGsについて		
問23	SDGsの認知度	総合戦略に関連してSDGsに係る設問
問24	SDGsの関心度	総合戦略に関連してSDGsに係る設問
問25	SDGsの関心のある項目	総合戦略に関連してSDGsに係る設問
問26	SDGsへの取り組む企業への関心度	総合戦略に関連してSDGsに係る設問
問27	行政や企業のSDGsへの取り組み姿勢	総合戦略に関連してSDGsに係る設問
問28	行政が重点的に推進すべき項目	総合戦略に関連してSDGsに係る設問
(8) 自由意見		
問29	自由意見	その他関心事項の把握

(4) スケジュール

調査スケジュールは表2のとおり。

表2 調査スケジュール

	令和6年					令和7年	
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
総合計画審議会		○ 11					○
1. 調査項目の作成							
(1)調査項目作成	—————						
(2)料金受取人払手続き ・封筒印刷	—————						
(3)調査票印刷・封入		———					
(4)発送		○ 9/30頃					
2. 調査の実施 (回答期間・2週間程度)			○ 10/15締切	○ 一部高校生			
3. 集計および分析							
(1)回収データの入力(単純集計)			—————				
(2)地域別集計					—————		
(3)年齢層別集計					—————		
(4)報告書作成	—————						—————

○ ————— : 実施予定時期

2. 調査方法

(1) 一般

- 調査対象者 : 御嵩町内在住の18歳以上の男女から無作為に抽出
抽出数 : 2,000人
調査方法 : 郵送による調査票の配布及び回収(回収はインターネットを併用)
調査票 : 依頼文、情報提供資料、設問および回答用紙により構成
(アンケート票を巻末資料に示す)
配布方法 : 角2型封筒(A4用紙を折らず封入できる大きさ、表面に「御嵩町総合計画策定に係る町民アンケート票在中」と表記)を用いて、調査対象者に調査票を配布
配布の周知 : 配布物については写真撮影し、町ホームページを通じて周知
回収方法 : ① 郵便による回収
配付時に同封する長3型(A4用紙3つ折りが封入できる大きさ(令和6年10月末日到着分まで有効))の返信用封筒を同封して回収
② インターネットによる回答の受付
googleフォーム上のアンケートシステムによる回収を郵便による回収と併用。

(2) 高校生

- 調査対象者 : 東濃実業高校及び東濃高校の令和6年9月1日現在の在校生
対象者数 : 891人
調査方法 : googleフォーム上のアンケートシステムによる

3. 回答数

アンケートの配布数と回収数、回答数、回収率は表3のとおり。
また、高校生の回答数は表4のとおり。

表3 アンケート配布数、回収数、回答率

配布数	有効配布数	回収数		有効回答数	回収率
		郵便による	webによる		
2,000	1,997	551	94	645	32.3%
		合計：645			

表4 高校生の回答数

配布対象数	回収数 (webによる)	有効回答数	回収率
891	820	820	92.0%

4. 回答者の属性

(1) 一般

1) 性別 (問1)

回答者の性別は、45.0%が男性、51.6%が女性であった(図1)。

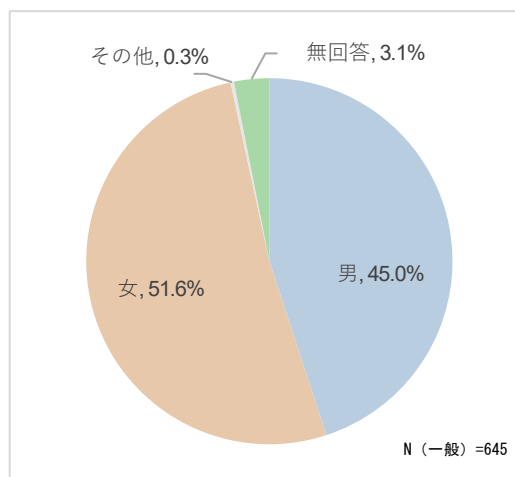


図1 性別による回答者の割合

2) 年齢 (問2)

回答者の年齢は、70歳以上が全体のおよそ4割を占め、50~69歳がおよそ3割であった。回答者の7割以上が50歳以上、20~39歳の回答者は1割強ほどであった(図2)。

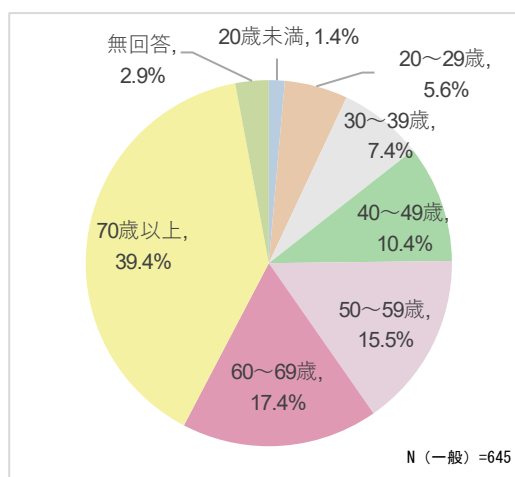


図2 年齢による回答者の割合

3) 職業 (問3)

回答者の職業は、1次~3次産業まで含め常勤者がおよそ3割、常時勤務されていない方がおよそ6割であった(表5)。

表5 職業等による回答者の割合

常勤者				常時勤務されていない方					無回答	合計
農 林 業	設 業 ・ 建	製 造 業 ・ サ ー	ビ ス 業 ・ サ ー	公 務 員 ・ 団	ル パ ー バ イ ト ・ ア	専 業 主 婦	学 生	無 職		
208 (32.2)				407 (63.1)					30 (4.7)	645 (100.0)
15 (2.3)	87 (13.5)	71 (11.0)	35 (5.4)	96 (14.9)	87 (13.5)	11 (1.7)	168 (26.0)	45 (7.0)	30 (4.7)	

単位：人 ()は%を示す

4) 勤務(通学)先 (問4)

回答者の通勤(通学)先は、町外がおよそ6割、町内がおよそ3割であった(図3)。

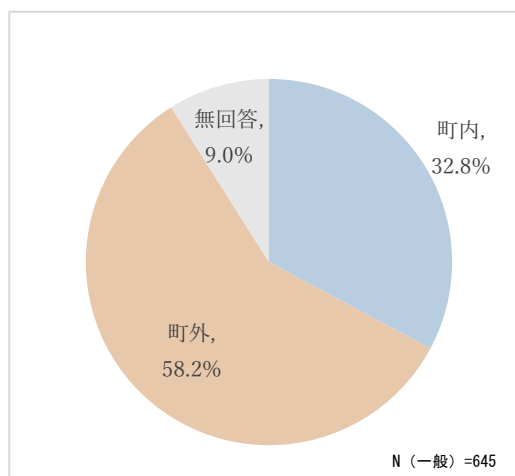


図3 勤務(通学)先による回答者の割合

5) 居住地区 (問 5)

回答者の居住地区は、中地区と御嵩地区、伏見地区のそれぞれがおよそ3割、上之郷地区がおよそ1割であった (図4)。

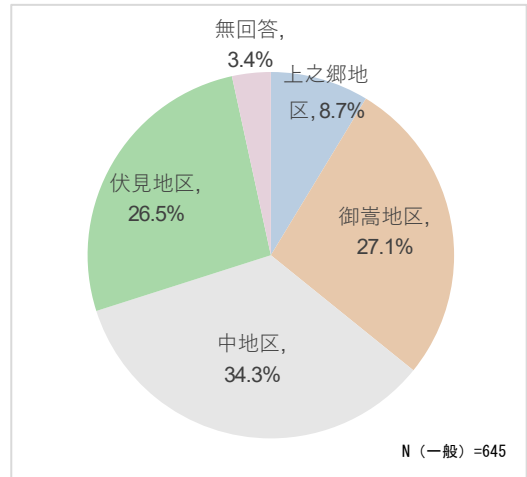


図4 居住地区による回答者の割合

6) 居住年数 (問 6)

回答者の居住年数は、20年以上がおよそ7割を占めた (図5)。

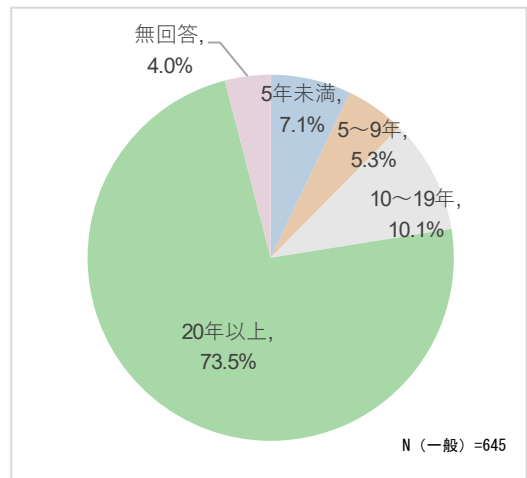


図5 居住年数による回答者の割合

(2) 高校生

高校生については、属性を問う設問のうち「職業」に係るものは、すべての対象者が「生徒」であることから省略した。

また、通学先の町内外を問うものは、すべての対象者の通学先が「町内」であることから省略した。一般を対象としたアンケートと設問番号を揃えるため、問3、問4は欠番とした。

1) 性別 (問1)

回答者の性別は、35.4%が男性、61.0%が女性であった(図6)。

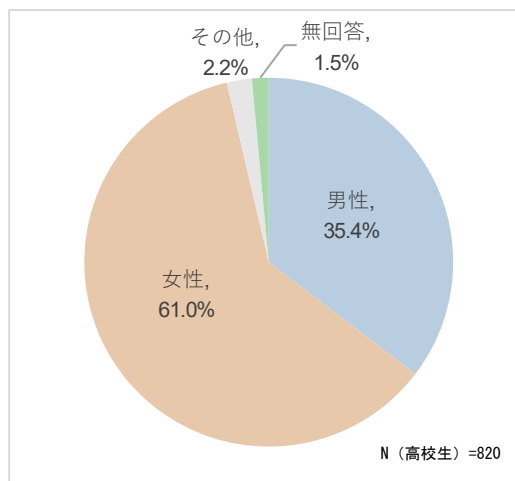


図6 性別

2) 学年 (問2)

回答者の学年は、1年生、2年生、3年生それぞれ概ね3分の1ずつとなった(図7)。

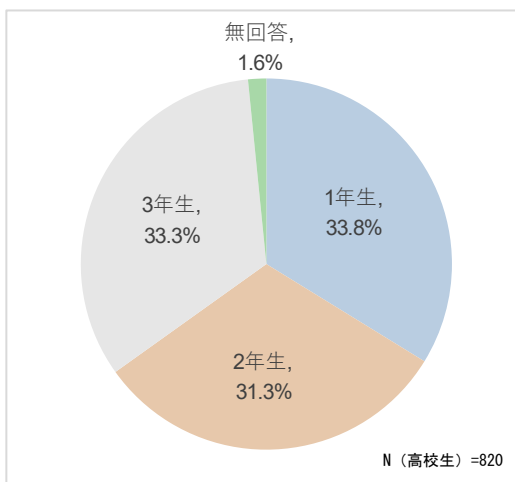


図7 学年

3) 居住地 (問5)

回答者の居住地は、町外がおよそ8割を占め、御嵩町内在住者は16.6%であった(図8)。

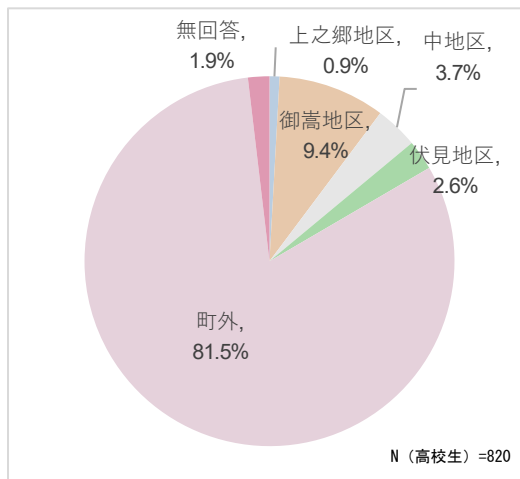


図8 居住地区

4) 居住年数 (問 6)

回答者のうち御嵩町在住者 (137 名) の御嵩町における居住年数は、7 割近くが 10 年以上であった。「1～4 年」、「5 年～9 年」はともに 8.1%であった (図 9)。

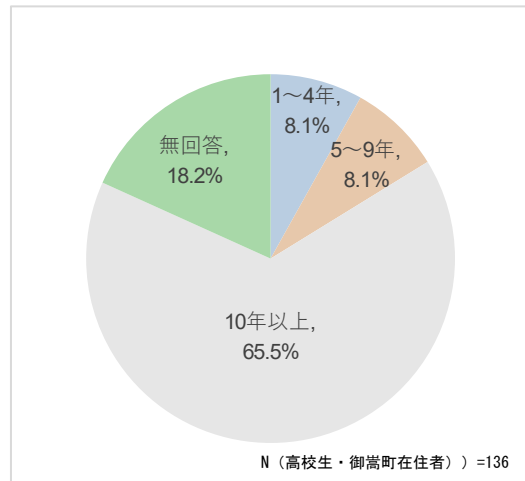


図9 居住年数

5. 調査結果の概要

(1) 御嵩町の住みやすさについて (問 7、問 11)

御嵩町の住みやすさ (問 7) については、一般の方の 54.0%が「住みやすいと思う」と回答した。

年代別に見ると、39 歳以下の 6 割強が「住みやすいと思う」と答え、他の年代よりも比率が高く、また、40 代以上では概ね 5 割強が「住みやすいと思う」と回答であった。

他方、高校生は「住みやすいと思う」と「わからない」がともに 4 割弱となった。

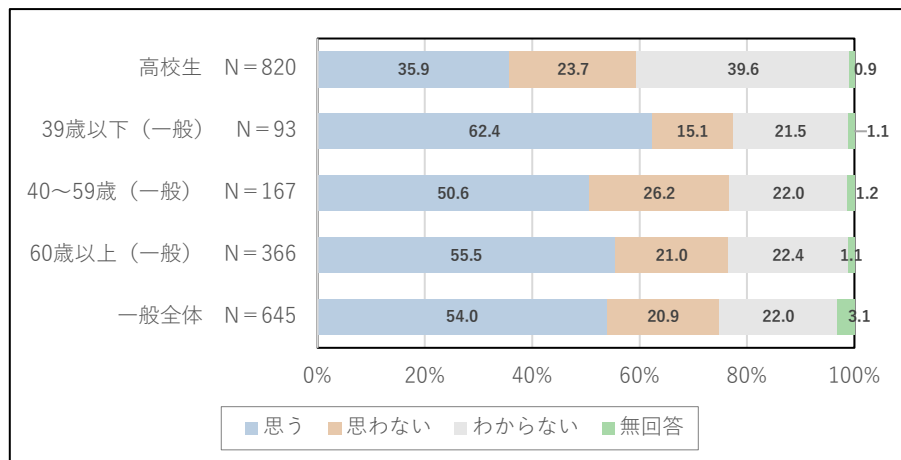
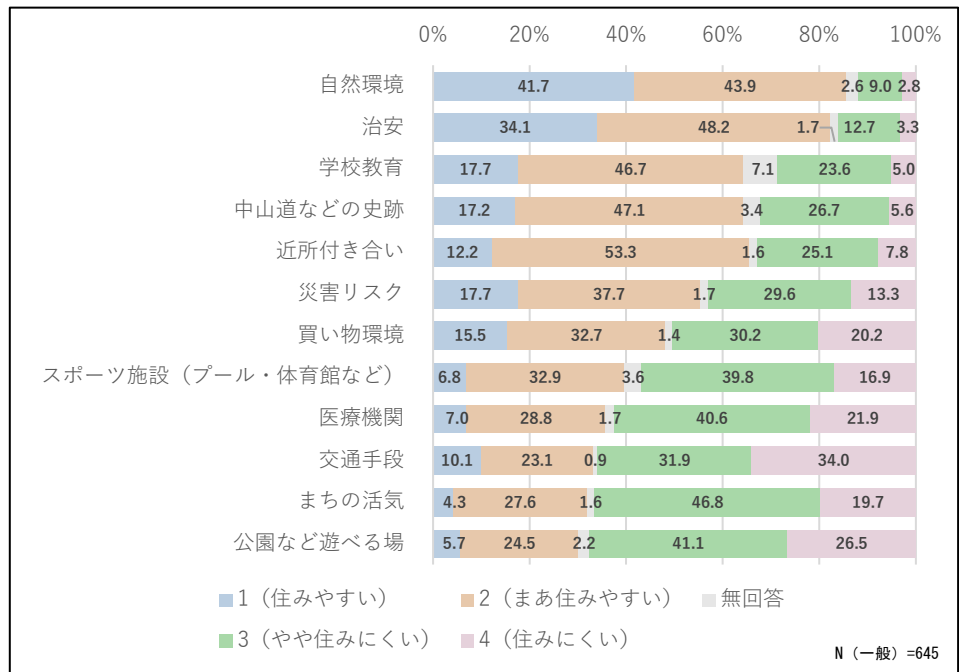


図10 住みよさについての回答

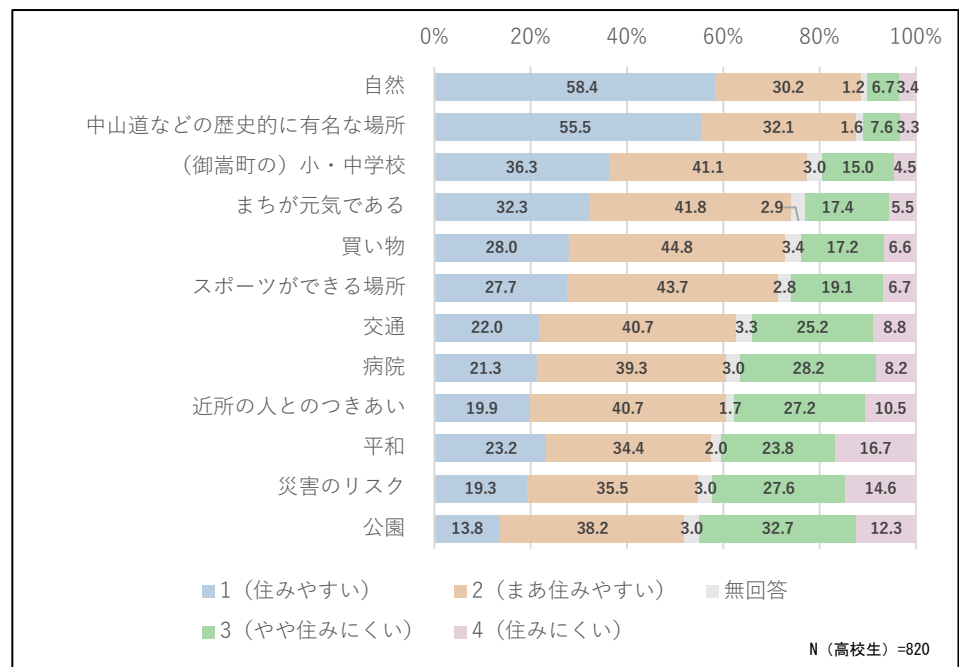
住みやすさを 12 の項目について 4 段階により回答を得た問 11 においては、一般で評価が高かったのは、「自然環境」、「治安」、「学校教育」、「中山道などの史跡」、「近所付き合い」であり、評価が低かったのは、「公園など遊べる場」、「まちの活気」、「交通手段」、「医療機関」、「スポーツ施設」であった (図 11)。

他方、高校生では「自然」、「中山道などの歴史的に有名な場所」、「(御嵩町の) 小・中学校」、「まちが元気である」、「買い物」の順で評価が高かった。「公園など遊べる場」は一般と同様に最も低い評価となったが、以下「災害リスク」、「治安」、「近所づきあい」、「医療機関」の順となっており、一般とは異なる傾向となった (図 12)。



※グラフは住みやすい (選択肢 1 と 2 の合計) の降順

図11 住みよさに係る項目への回答 (一般)



※グラフは住みやすい (選択肢 1 と 2 の合計) の降順

図12 住みよさに係る項目への回答 (高校生)

(2) 自慢できること（問8、問9、問10）

御嵩町を自慢できるかについては、一般全体では「わからない」が36.0%で最も多く、「自慢できない」が29.1%、「自慢できる」が27.3%であった。

高校生では「わからない」が5割を超え、「自慢できる」、「自慢できない」ともに2割ほどであった（図13）。

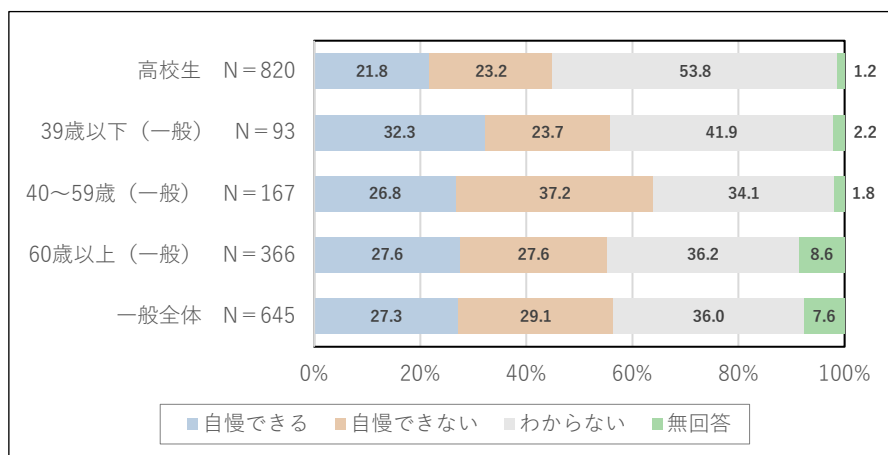


図13 自慢できるかについての回答

自慢できることに関して自由に回答を求めたところ、最も多かったのは「自然」に関する内容で、ホテルやササユリが見られる点などが挙げられた。

また、「スーパーや病院があり、住みやすい」「行政サービスが手厚い」といった意見や、「高速道路が近い」「交通の便が良く、日本の中心にある」など、生活や交通の利便性にも一定の評価が見られた。名古屋など都市部へのアクセスの良さが評価される一方、公共交通機関に関する意見は少なく、車利用が前提の可能性もある。そのほか、「田舎ゆえに行政サービスが利用しやすい」など、都市部にはない利便性を感じる住民もいることが伺える。

さらに、御嶽宿や伏見宿、中山道の宿場町、願興寺の文化財や伝統文化など、歴史的価値を挙げる意見があり、「お祭りやイベントが定期的に行われている」「町民運動会が続いている」といった地域のつながりに関する評価もあった。

他方、「自慢できない」、「わからない」との回答者にどのようなものがあれば自慢できるかを尋ねたところ、大型の「商業施設」、「交通の便」、「観光資源や名物、文化的・歴史的価値の発信」、「娯楽施設やイベント」、「教育環境の向上」、「行政サービスの向上」、「まちの景観や環境整備」、「住みやすさの向上」、「町のブランドイメージの向上」などが挙げられた。

(3) 定住の意向 (問 12)

定住の意向については、一般全体をみると御嵩町に住み続けたいと「思う」が50.2%、「思わない」が6.5%となったのに対し、高校生では「思う」が13.3%、「思わない」が44.9%であり、傾向が大きく異なった(図14)。

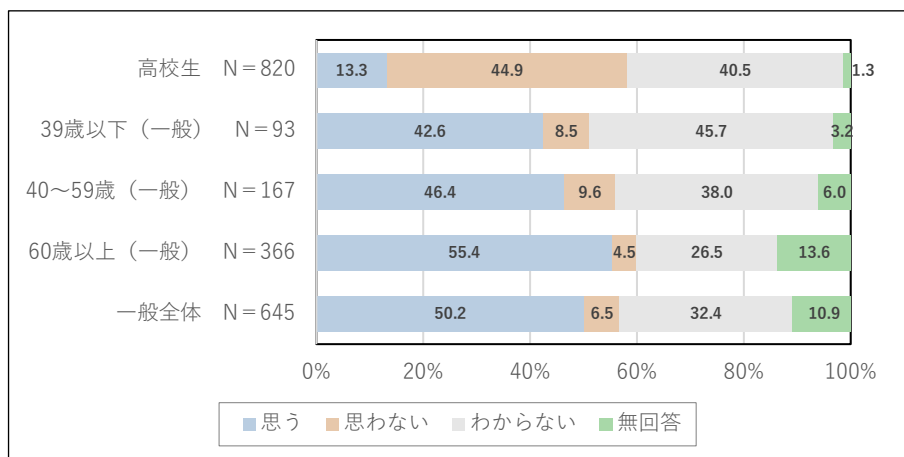


図14 定住の意向

(4) 分野別の満足度・重要度（問 13、問 14）

問 13 は、まちづくりの施策についての満足度と重要度の設問であり、問 14 において特に力を入れるべき項目を選択する設問とした。一般では多かった順に「医療機関の充実」、「公共交通機関の充実」、「高齢者福祉の充実」、「子育て支援の充実」、「防災に対する体制強化」となった（図 15）。

高校生では、「医療機関の充実」、「雇用の確保」、「障がい者福祉の充実」、「高齢者福祉の充実」、「公共交通機関の充実」となった（図 16）。

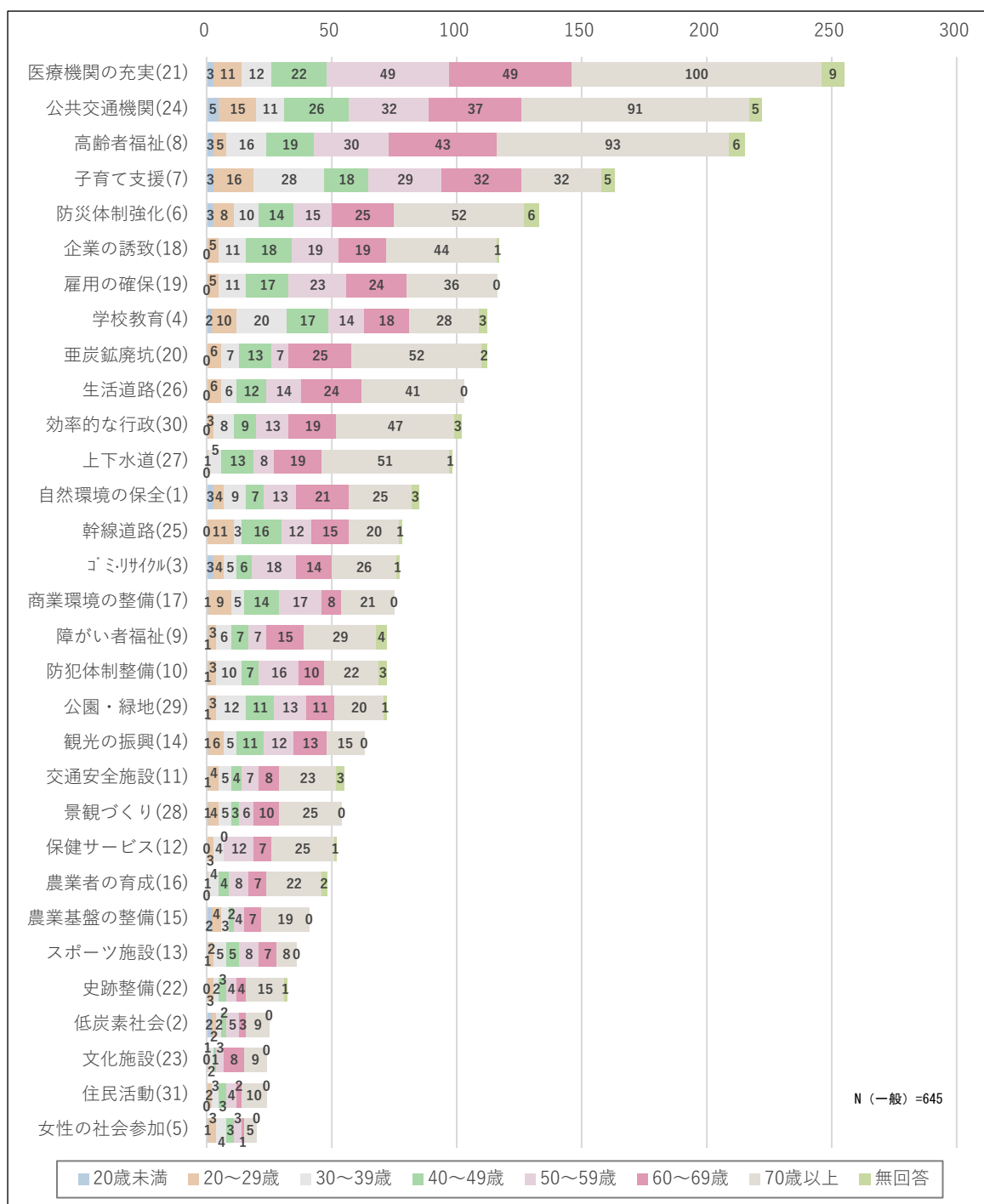


図 15 特に力を入れるべき施策（一般）

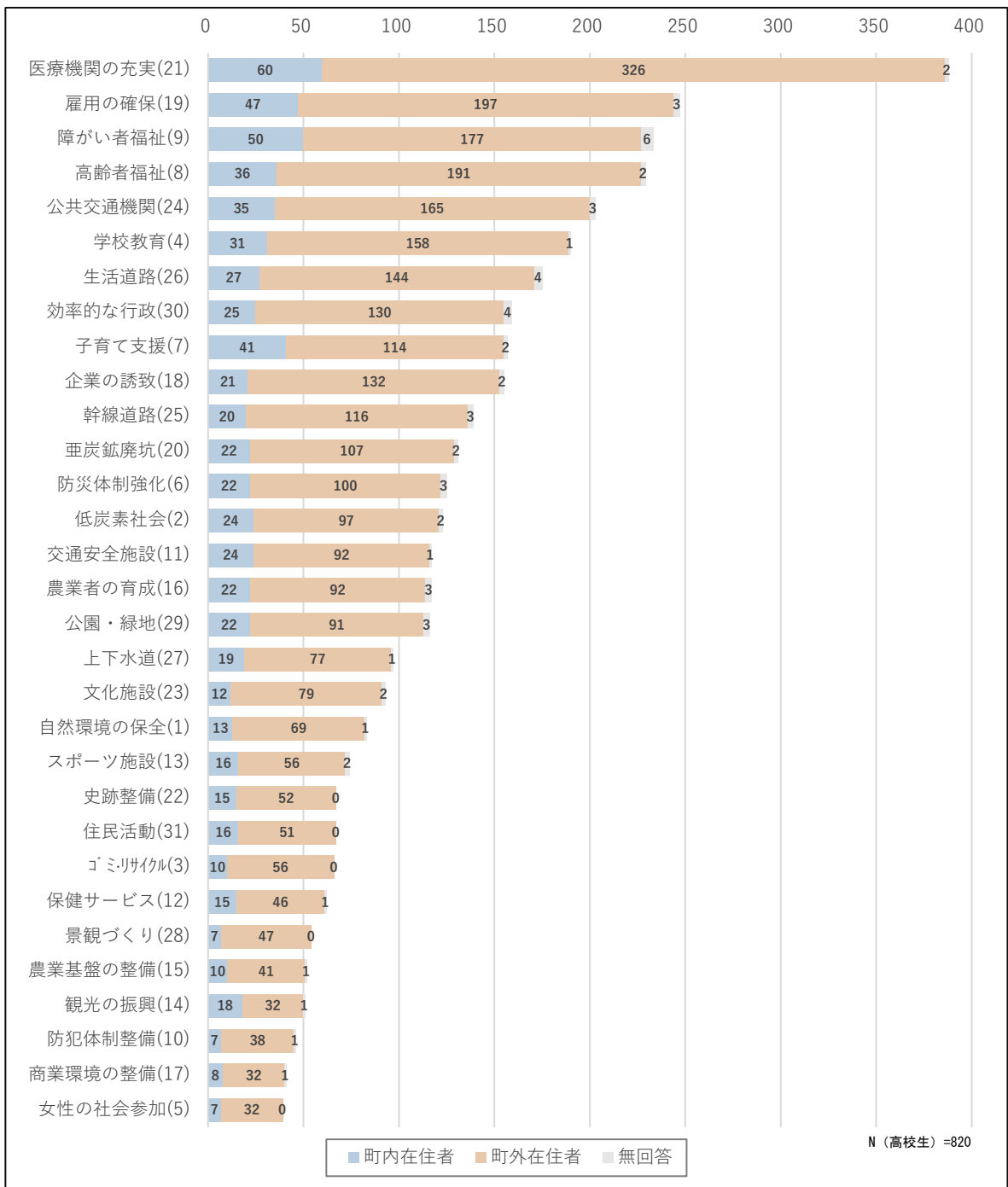


図16 特に力を入れるべき施策（高校生）

(5) 日常生活や地域で取り組んでいること (問 15)

日頃の生活や活動については、一般では「環境にやさしい商品を購入し、リサイクルやごみの減量に取り組んでいる」、「日ごろから健康増進に取り組んでいる」、「男女は平等であると意識し、仕事や家事に取り組んでいる」との回答が多く、「消防団に入団したり、消防活動を手伝ったりしている」、「御嵩町の観光のPRや町外の人を案内している」、「地域の外国人とふれあい、交流している」は少ない結果であった(図17)。

高校生は「森林や川などの自然環境を大切にし、親しんでいる」、「男女は平等である」と意識し、仕事や家事に取り組んでいる」、「日ごろから健康増進に取り組んでいる」との回答が多く、「子ども達や子育て期の家族を見守り、相談に乗ったりしている」、「消防団に入団したり、消防活動を手伝ったりしている」、「趣味で農業に親しんだり、農業の体験に参加している」が少ない結果であった(図18)。

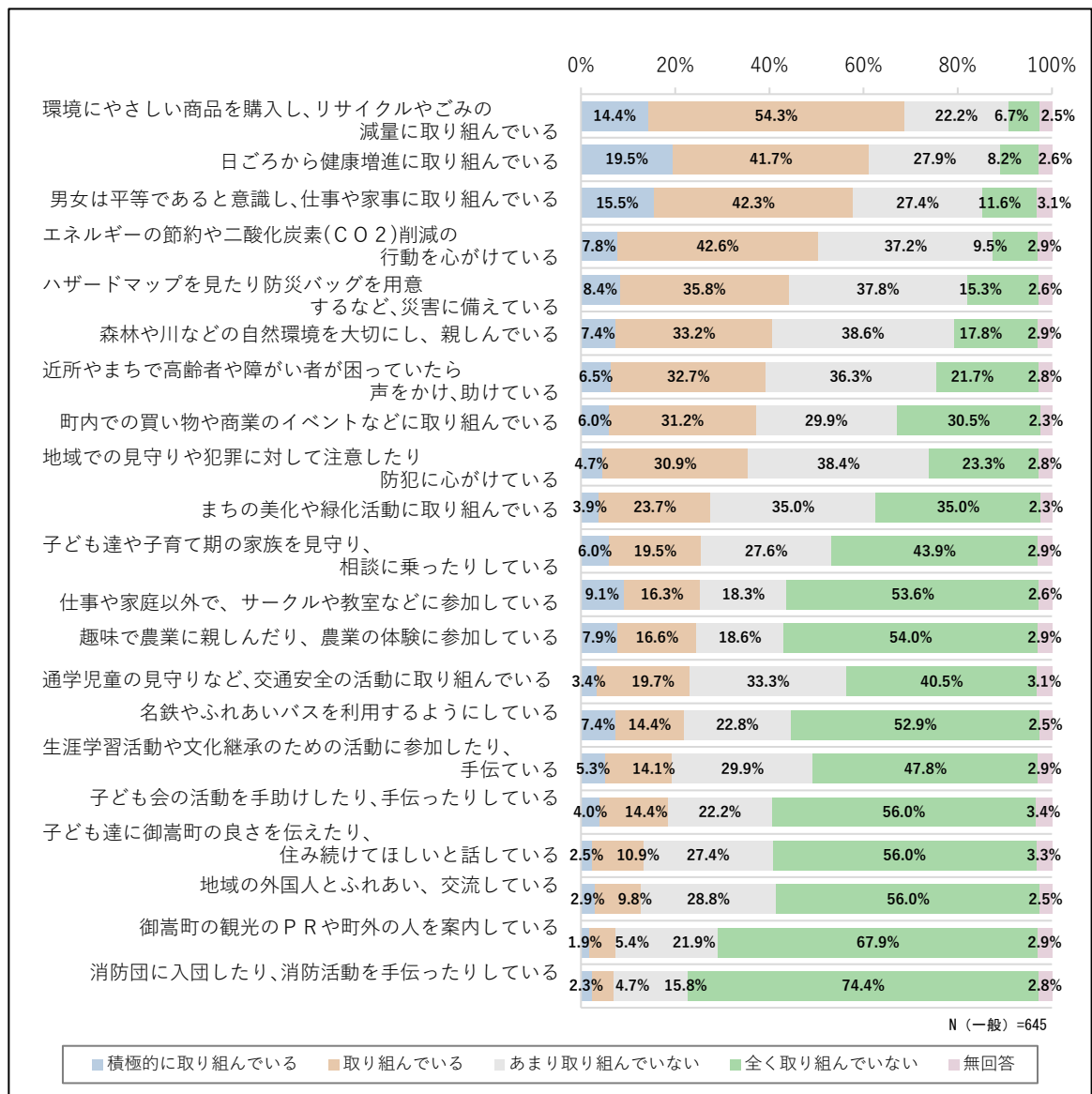


図17 日常生活や地域で取り組んでいること (一般)

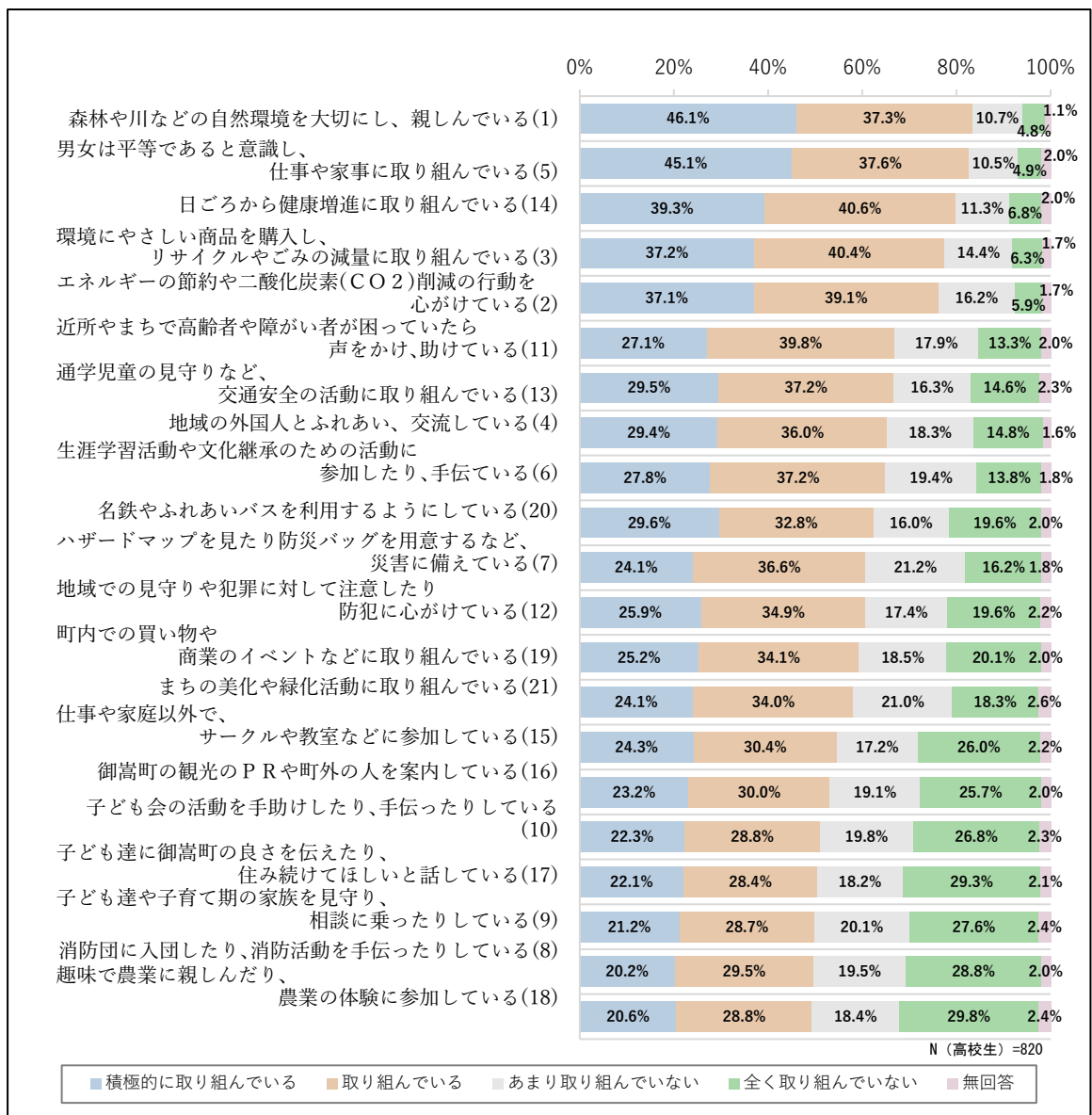


図18 日常生活や地域で取り組んでいること(高校生)

(6) 人口減少に関連した設問

1) 子どもや若い人たちにとって住み続ける魅力(問16)

御嵩町が若い人たちにとって住み続ける魅力があると思うかとの問いでは、40代から50代の世代の半数近く(45.1%)が「思わない」と答えており、すべての年代を通じて最も比率が高くなった。また、住み続ける魅力があると「思う」の比率は、高校生が最も低くなった。

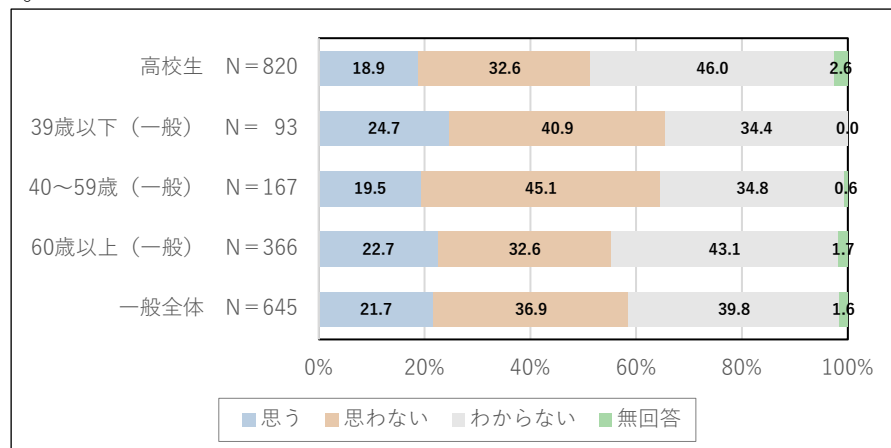


図19 子どもや若い人たちにとって住み続ける魅力があると思うか

2) ほかの町の人から見た御嵩町（問 17）

御嵩町が他の町の人から見て「住んでみたい町」、「訪れてみたい町」のイメージがあると思うかとの問いでは、どの年代でも「思わない」が多数を占めたが、「思う」の比率は高校生が最も高くなった（図 20）。

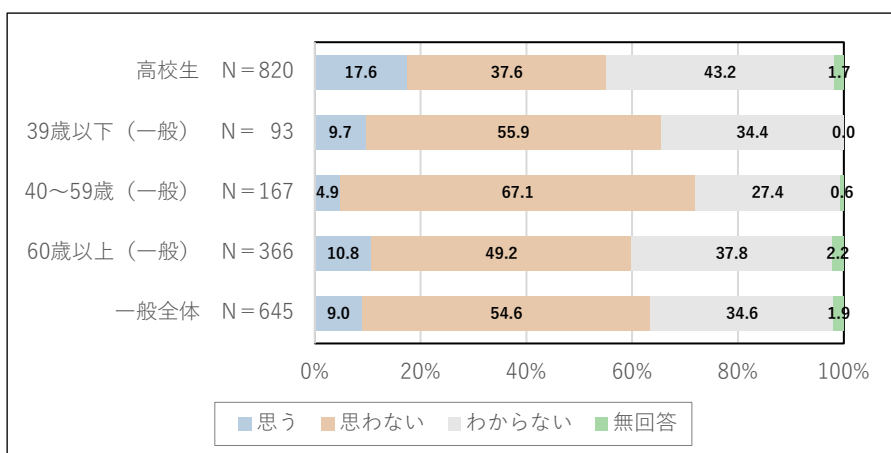


図20 他の町の人から見た御嵩町は「住んでみたい町」、「訪れてみたい町」のイメージと思うか

3) 定住や移住促進のための方策（問 18）

若い人たちが住み続けることができたり、住む人を増やしたりするためには、今後どのようなことに力を入れるべきだと思うかとの設問においては、一般では「子育て支援・子育て環境の充実」、「福祉・医療機関の充実」、「買い物の利便性の向上」、「雇用の場づくり」、「公共交通の維持・充実」に多くの回答があった（図 21）。

高校生では、「買い物の利便性の向上」、「公共交通の維持・充実」、「学校・教育の充実」、「子育て支援・子育て環境の充実」、「環境にやさしいまち」が上位となった（図 22）。

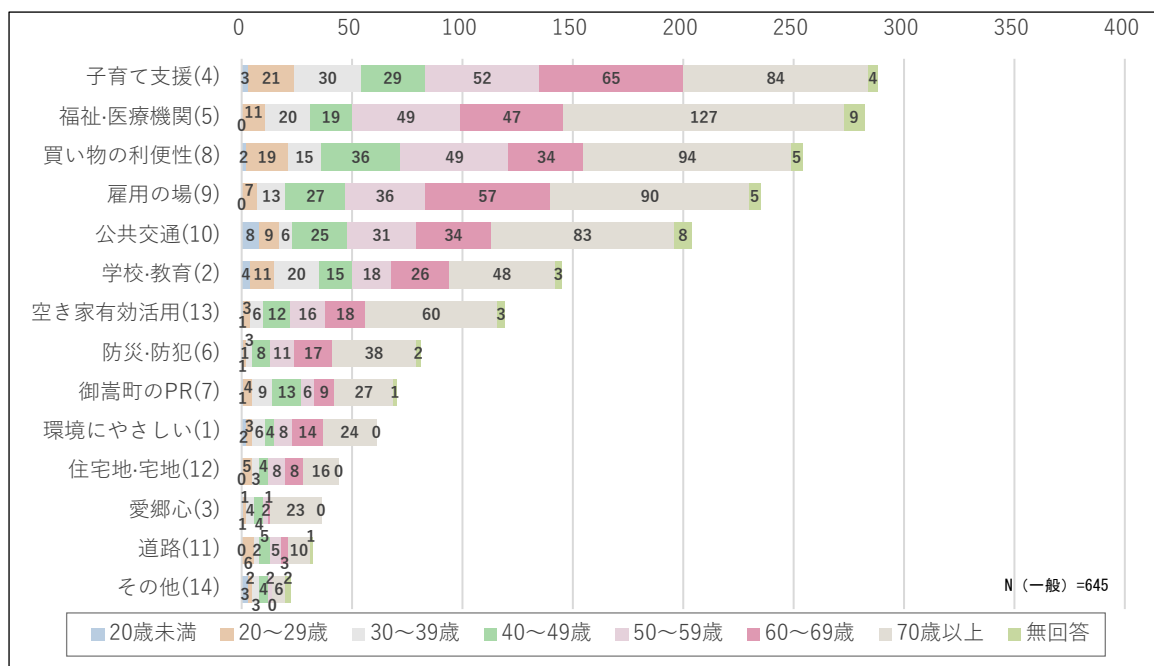


図21 若い人たちが住み続け、住む人が増えるために力を入れるべきこと（一般）

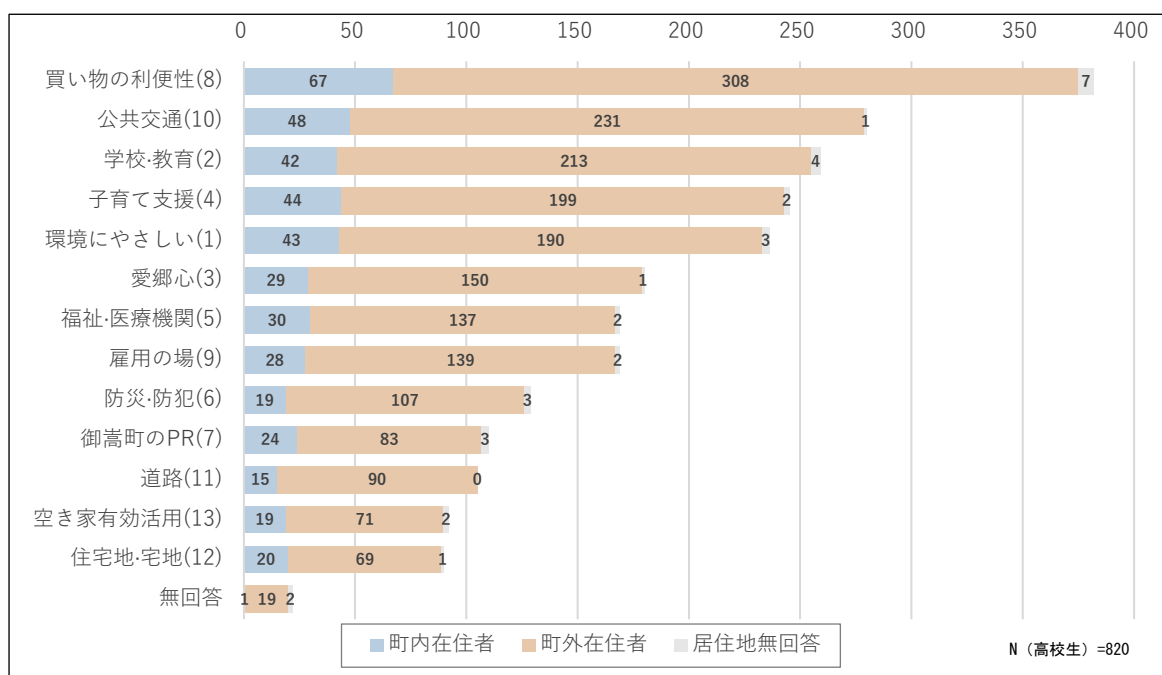


図22 若い人たちが住み続け、住む人が増えるために力を入れるべきこと（高校生）

4) 若い人たちが暮らしやすく、夢が持てるために必要なこと（問 19）

若い人たちが暮らしやすく、夢が持てるために必要なこととしては、一般では「就職することができ生活が安定すること」、「若い人たちが楽しむことができる施設やイベントがあること」、「進学したときに奨学金などの支援があること」が上位を占めた（図 23）。

高校生では、「就職することができ生活が安定すること」、「若い人たちが楽しむことができる施設やイベントがあること」が一般と同様に上位であったが、その次には「若い人たちがスポーツや趣味を楽しむことができること」や「地域や企業が若い人たちの意見を取り入れること」に多くの回答があった（図 24）。

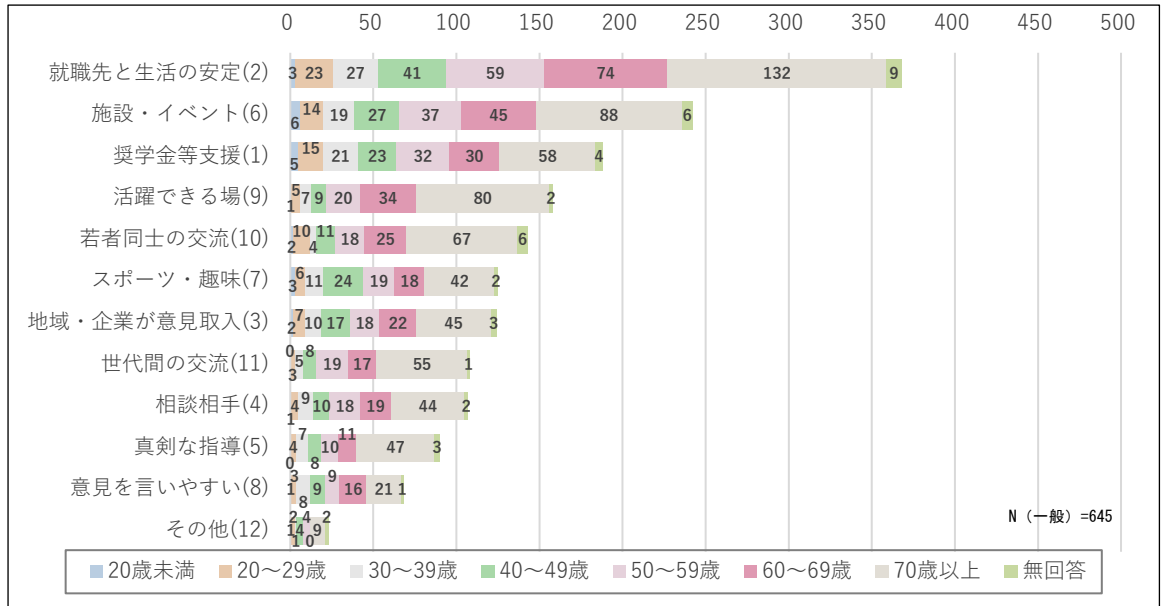


図23 若い人たちが暮らしやすく、夢が持てるために必要なこと（一般）

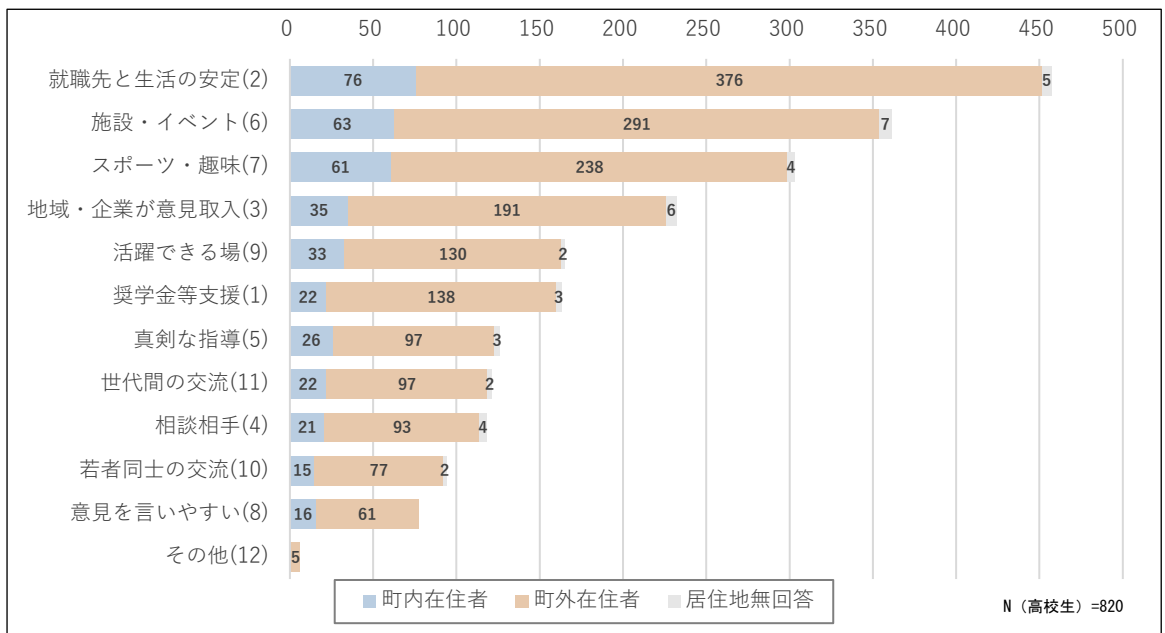


図24 若い人たちが暮らしやすく、夢が持てるために必要なこと（高校生）

(7) 「10年後」のまちの将来像

1) 今後10年間のまちづくりで重要なこと (問20)

今後10年間のまちづくりで重要なこととしては、一般、高校生とも「子どもを産み育てやすい環境づくり」、「若い人たちの定住、就業の促進」、「高齢者や障害のある人が暮らしやすい福祉の拡充」、「防災、防犯、交通安全対策による安心・安全なまちづくり」、「元気に暮らせる健康づくりの取り組みや医療の充実」が上位を占めた(図25、図26)。

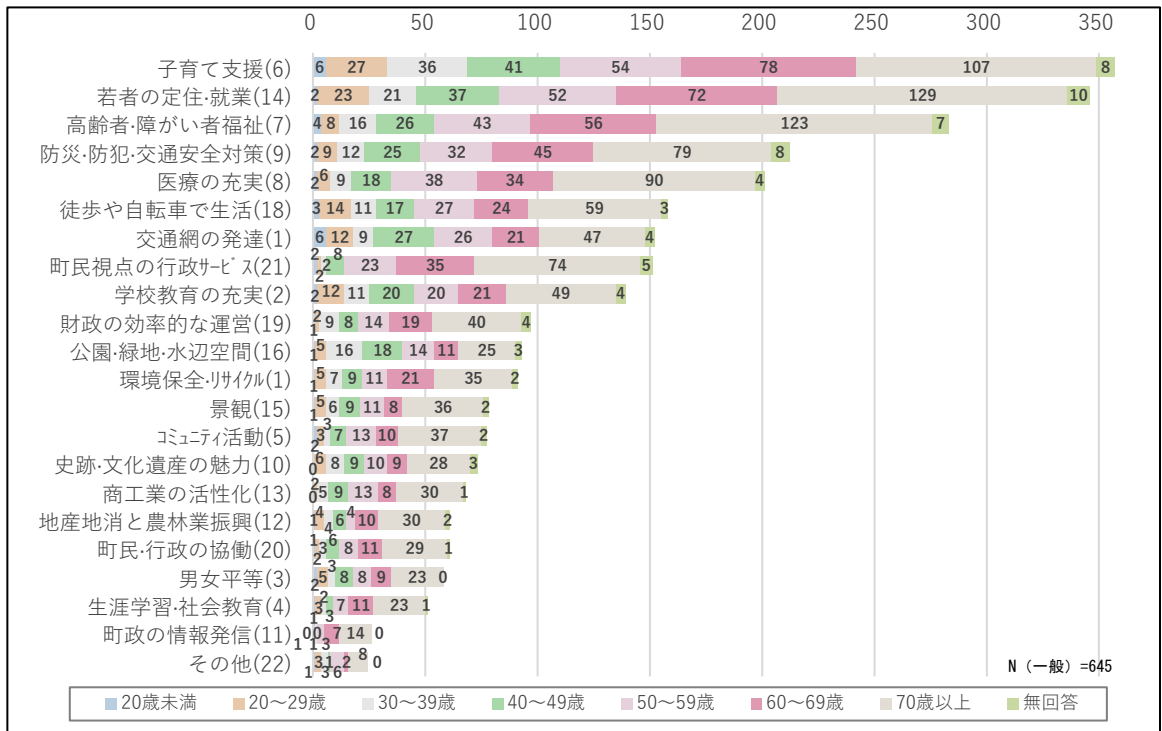


図25 今後10年間のまちづくりで重要なこと (一般)

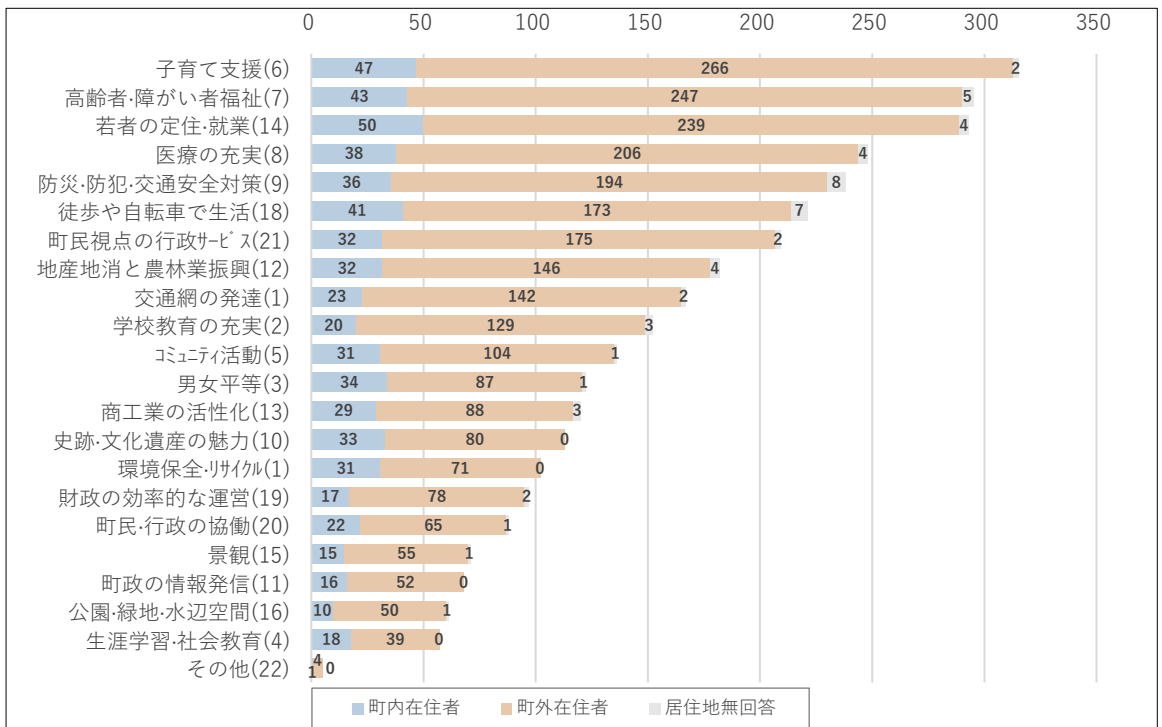


図26 今後10年間のまちづくりで重要なこと (高校生)

2) 若い人たちが生き生きと活動できる環境の実現 (問 21)

一般、高校生とも、若い人たちが生き生きと活動できる環境実現には、「若い人たちへの就労支援」が上位の回答であった (図 27、図 28)。

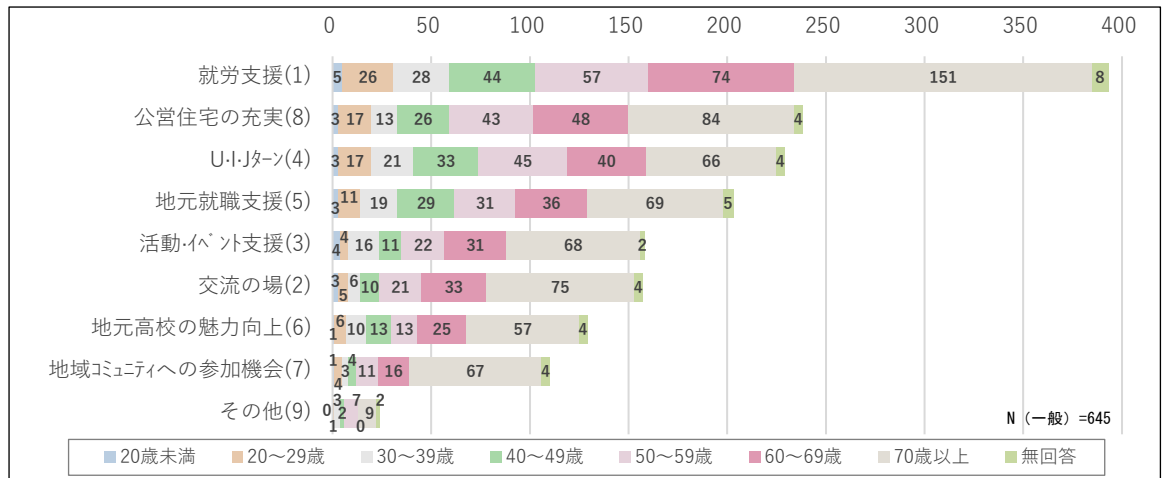


図27 若い人たちが生き生きと活動できる環境実現のために取り組むべきこと (一般)

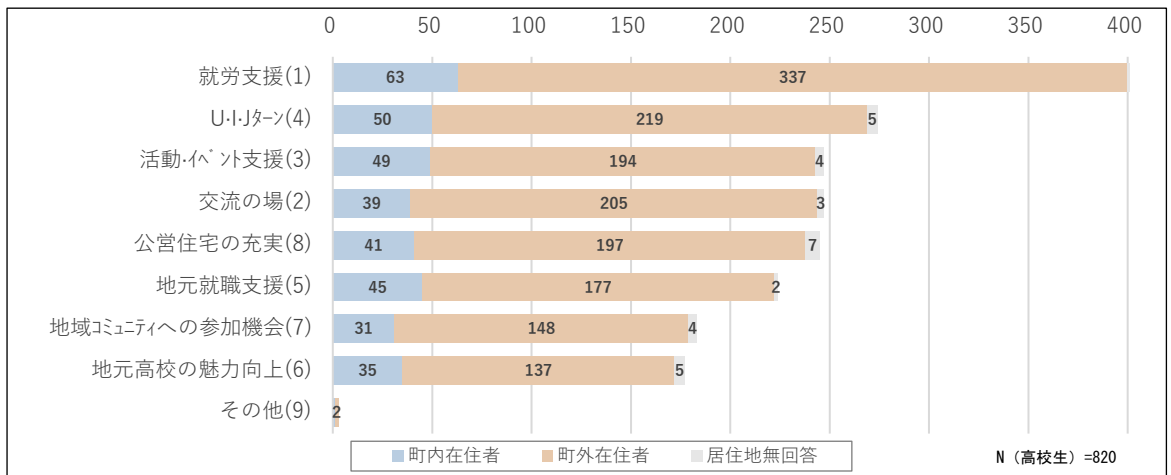


図28 若い人たちが生き生きと活動できる環境実現のために取り組むべきこと (高校生)

3) 安心して子どもを産み、子育てできる環境の整備 (問 22)

安心して子どもを産み、子育てできる環境の整備のために取り組むべきことについては、一般の回答では「子育てと仕事の両立しやすい環境の整備」、「子どもが遊べる場所の整備、充実」が最上位となったのに対し、高校生では「早朝保育や延長保育の充実」、「子育て世帯への経済的支援」が最上位となった (図 29、図 30)。

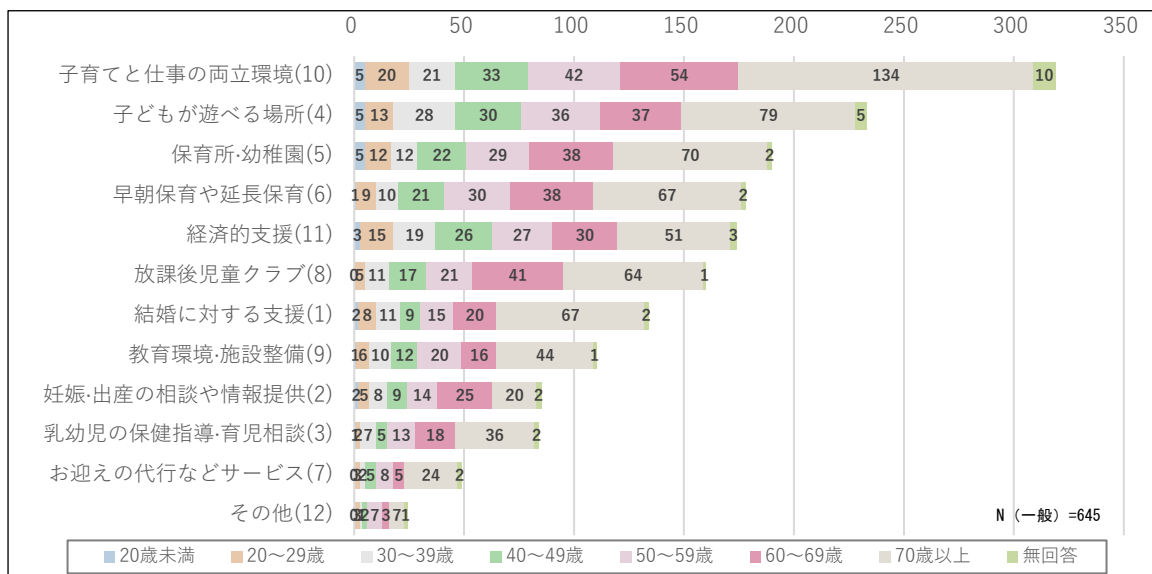


図29 安心して子どもを産み、子育てできる環境の整備のために取り組むべきこと (一般)

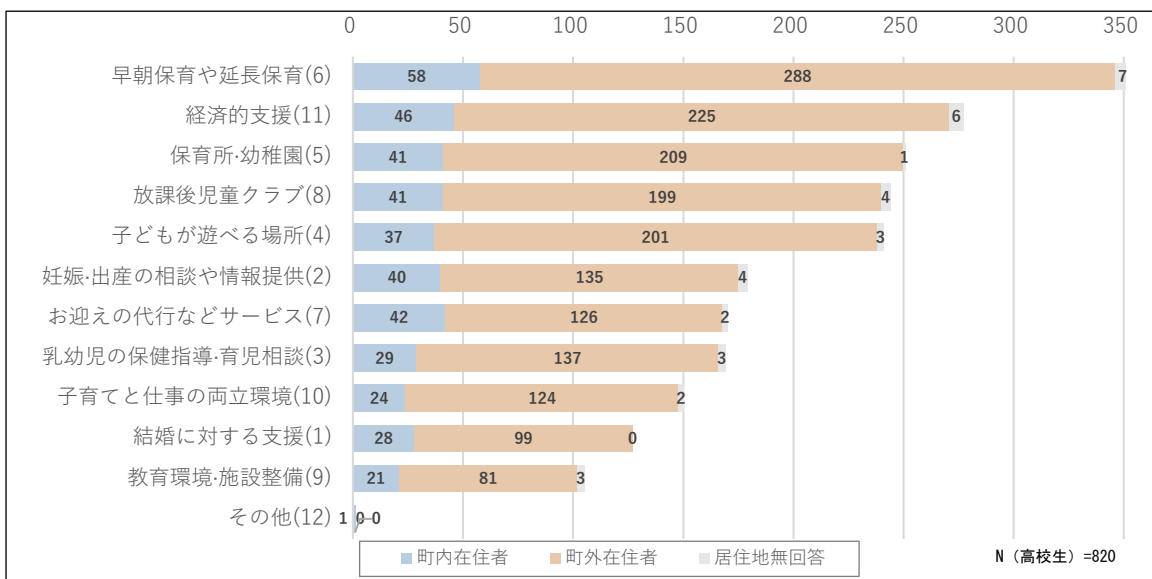


図30 安心して子どもを産み、子育てできる環境の整備のために取り組むべきこと (一般)

(8) SDGsについて

1) SDGsを知っているか (問 23)

SDGsについては、一般で 38.0%、高校生で 59.6%が「知っている」との回答であり、一般と比較して高校生には浸透していると考えられる。「知らない」と「無回答」を合わせると一般では2割を超えるのに対し、高校生では一割程度であった(図 31)。

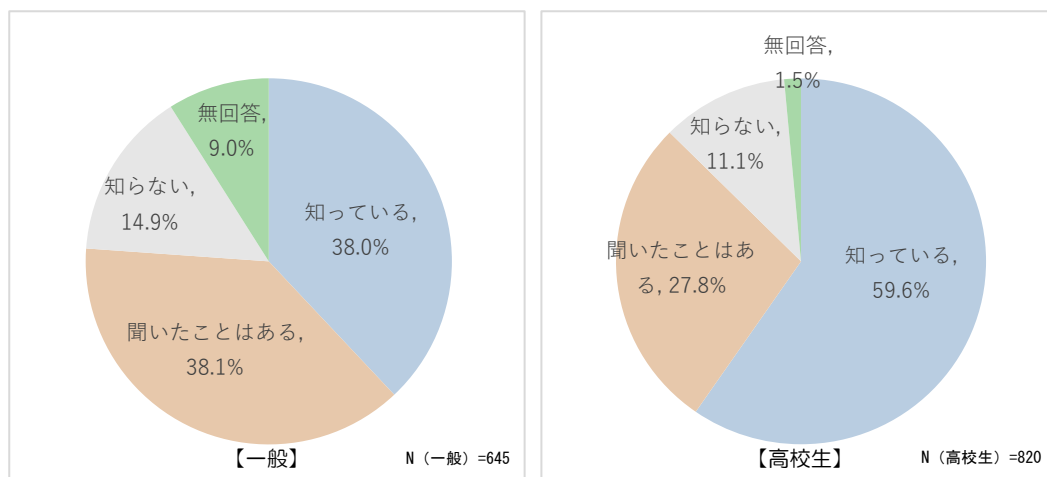


図31 SDGsについて知っているか

2) SDGsに関心があるか (問 24)

「非常に関心がある」と「やや関心がある」を合わせると、一般は 58.1%、高校生は 68.6%であった(図 32)。

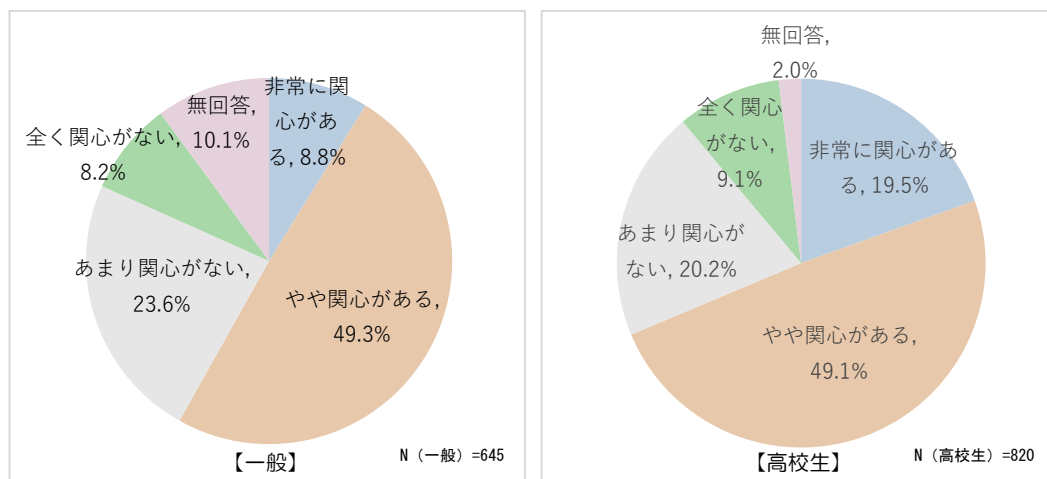


図32 SDGsに関心があるか

3) 17のゴールのうち関心があるもの(問25)

一般では「健康であること」、「再生可能エネルギー」、「気候変動の対策」、「貧困をなくすこと」、「平和で公正な社会」が上位を占めた(図33)。

一方、高校生は「気候変動の対策」、「健康であること」、「平和で公正な社会」、「再生可能エネルギー」、「新しい技術とインフラ」が上位となった(図34)。

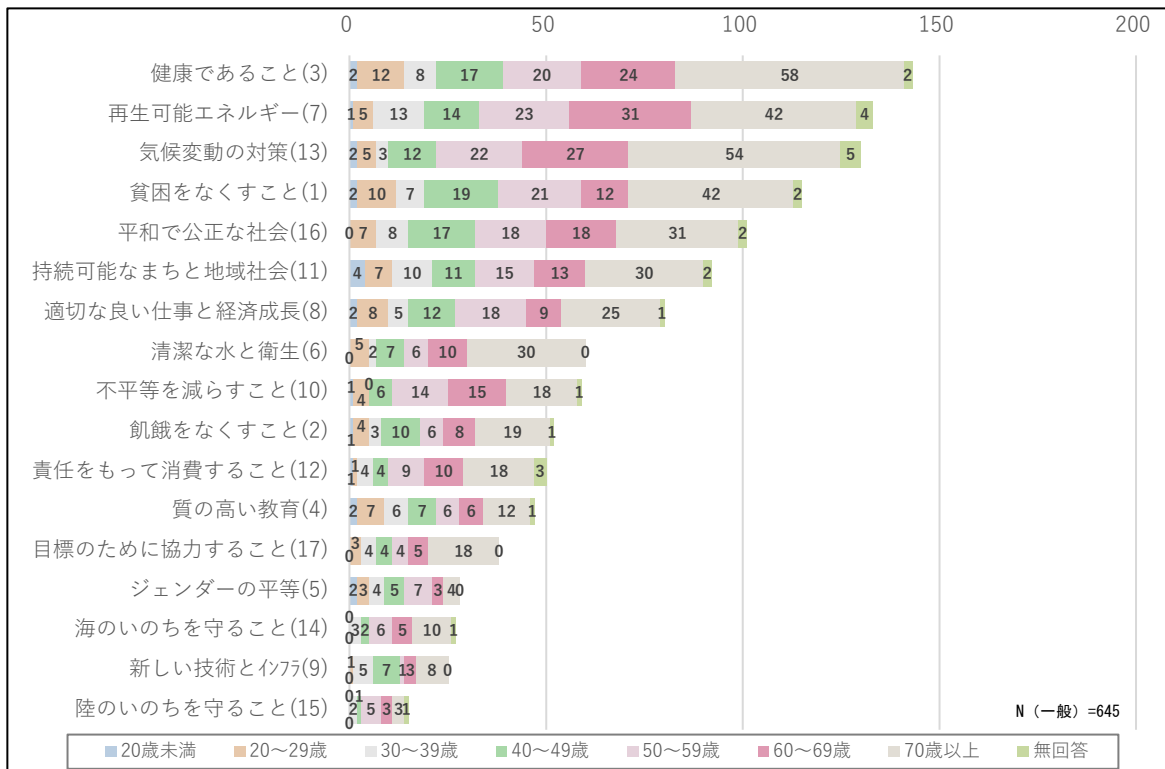


図33 SDGsに関心があるか(一般)

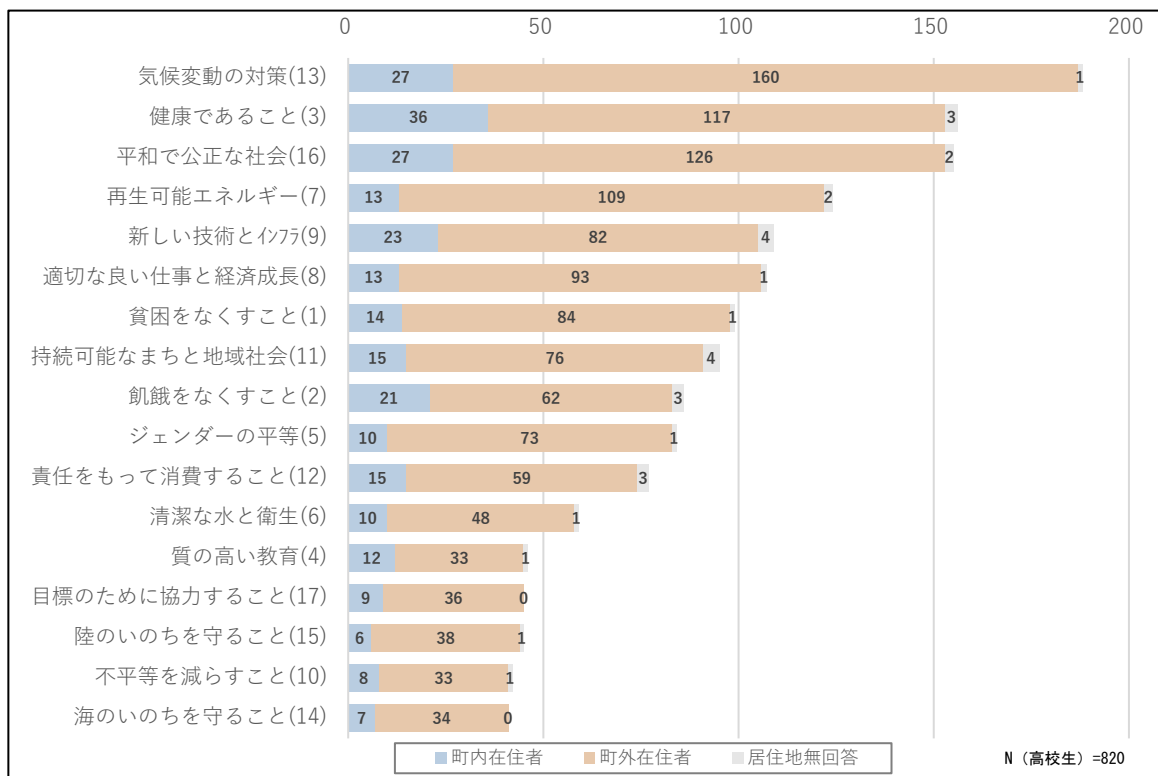


図34 SDGsに関心があるか(高校生)

4) 購入活動の中で、製造者や商品・サービス自体のSDGsを重視するか（問26）

購入活動においては、一般では「とても重視する」と「多少重視する」を合わせて5割強となるのに対し、高校生では4割弱であった（図35）。

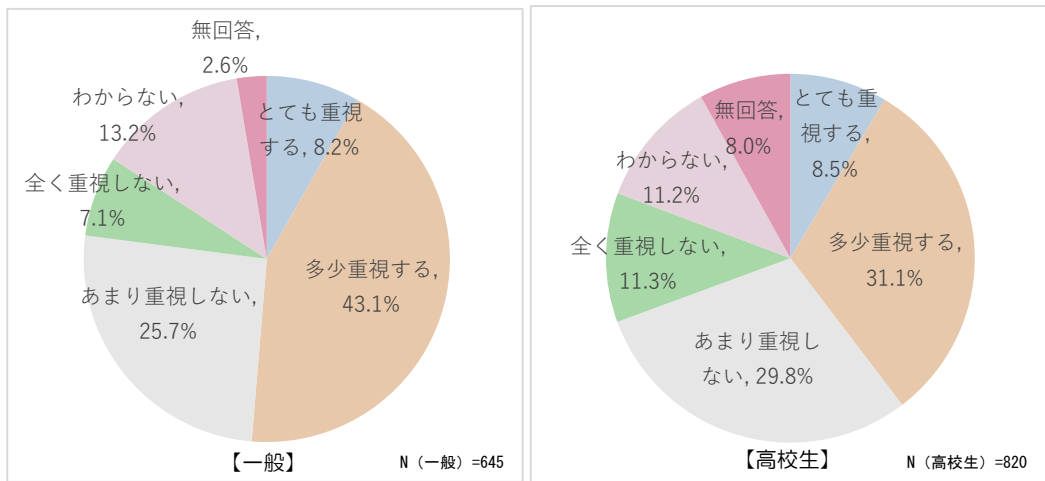


図35 購入活動におけるSDGs

5) 御嵩町内（町役場、町内企業等）のSDGs推進（問27）

御嵩町内においてSDGsが推進されるべきかとの問いに対しては、一般、高校生とも「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせると6割台であった（図36）。

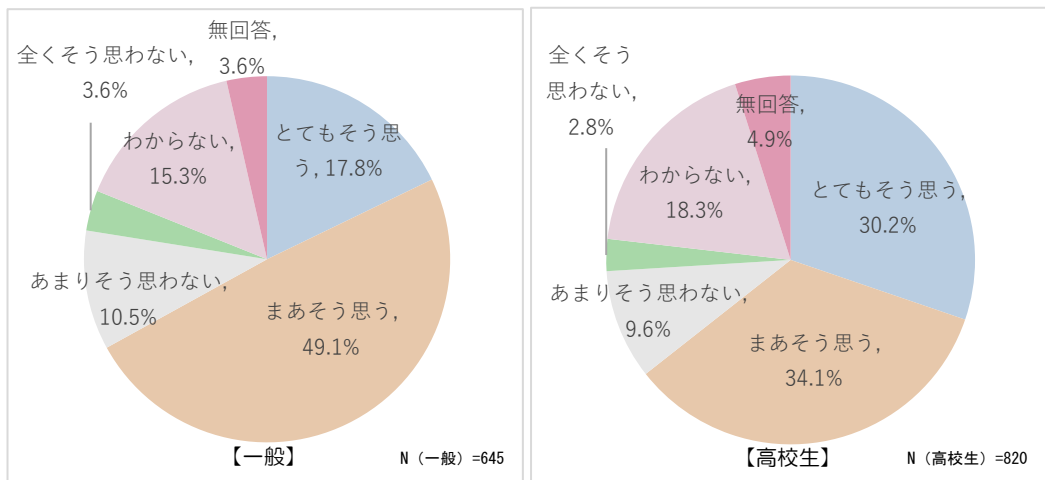


図36 御嵩町内でのSDGs推進されるべきか

6) 御嵩町が積極的に推進すべきゴール（問 28）

御嵩町が積極的に推進すべきゴールとしては、一般では「健康であること」、「持続可能なまちと地域社会」が最上位となっており（図 37）、高校生では「適切な良い仕事と経済成長」と「貧困をなくすこと」が最上位となった（図 38）。

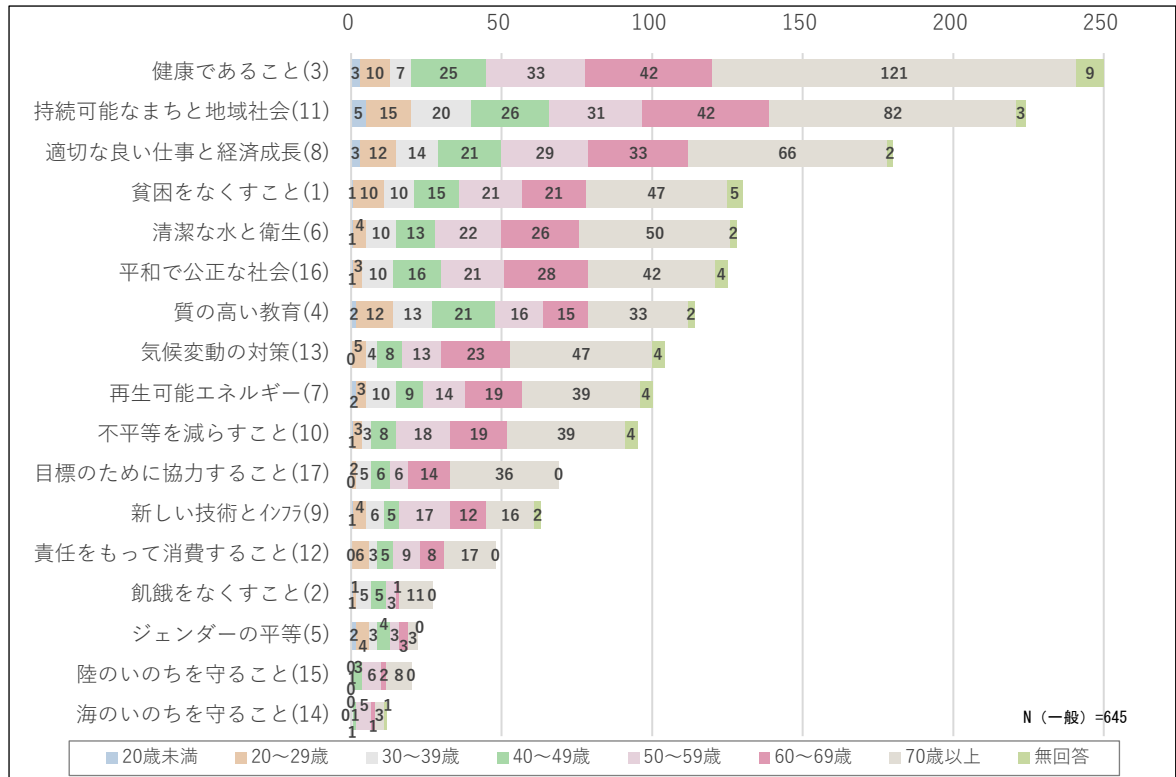


図37 御嵩町が積極的に推進すべきゴール（一般）

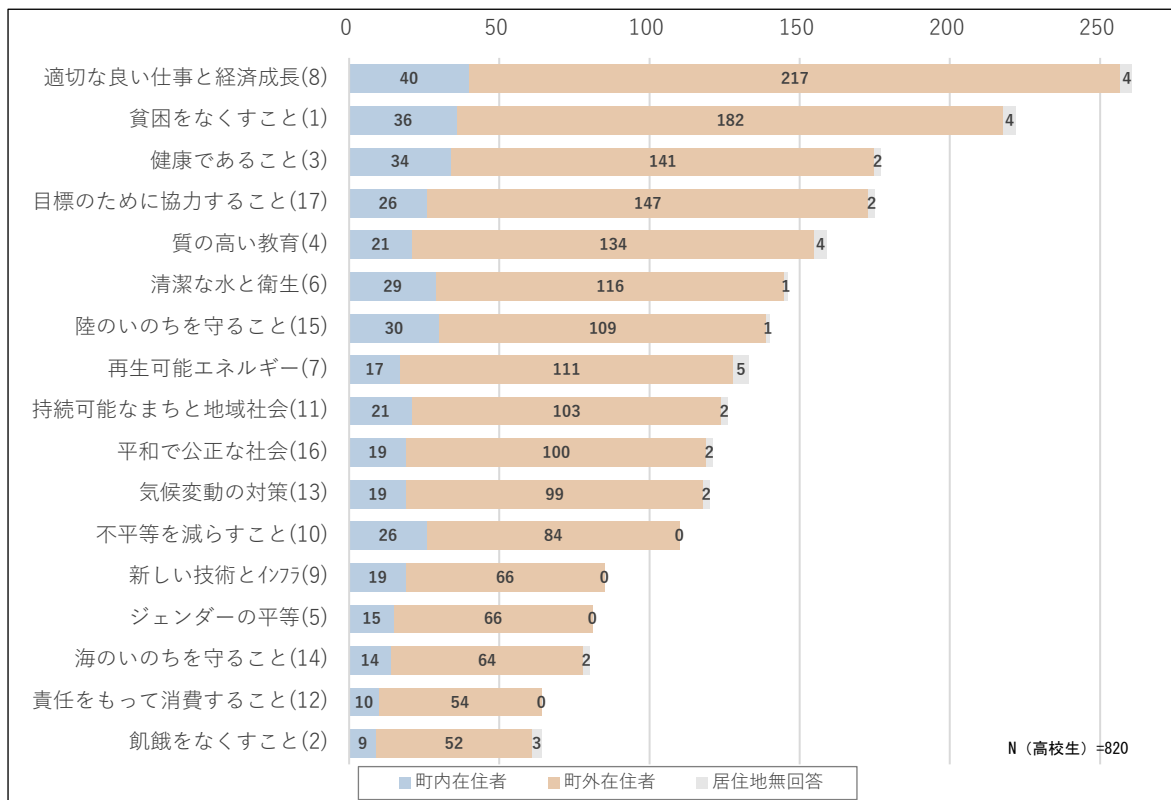


図38 御嵩町が積極的に推進すべきゴール（高校生）

(9) 自由回答 (問 29)

1) 一般 (回答者数 297 名)

主な要望は下記のとおり。

- ・ 公共交通をはじめとする町内の交通手段への懸念
- ・ 人口減少への対応と若年層の定住促進
- ・ 高齢者の支援強化
- ・ 行政窓口の対応
- ・ 自然資源の活用
- ・ 自治会などの地域コミュニティの持続性
- ・ 教育環境の充実
- ・ 商業や観光の振興
- ・ 草刈りや街灯設置などを含めた防災安全対策

2) 高校生 (回答者数 237 名)

主な要望は下記のとおり。

- ・ 公共交通の運行頻度など利便性の改善
- ・ イオンモールの誘致などを含めた商業施設の充実
- ・ 娯楽・レジャー施設の不足
- ・ SNSなどを活用した、町の情報発信の強化
- ・ 自然と観光資源の活用
- ・ 歩道の拡幅や外灯設置など交通安全設備の充実
- ・ 地域イベントの拡充などによる交流の活性化
- ・ まちづくりへの若年層の参加
- ・ 町の魅力の再発見の活動

6. 過去のアンケートとの比較

御嵩町では、現行計画のならびに後期基本計画の策定にあたりアンケートを実施した。実施年は平成 26 年 (以下、「前々回調査」とする) と令和元年 (以下、「前回調査」とする) であった。

以下の項目について、過去のアンケートと今回調査の結果を比較した。

- ・ 御嵩町の住みよさについて
- ・ 自慢できること
- ・ 定住の意向
- ・ 分野別の満足度・重要度
- ・ 日常生活や地域で取り組んでいること
- ・ 子どもや若い人たちにとって住み続ける魅力
- ・ ほかの町の人から見た御嵩町
- ・ 定住や移住促進のための方策
- ・ 若い人たちが暮らしやすく、夢が持てるために必要なこと

(1) 御嵩町の住みよさについて（問7、問11）

今回調査では、住みよいと「思う」とする回答が54.0%で前々回調査以来しだいに低くなっており、「思わない」は次第に高くなってる（図39）。

項目別では、前回調査と比較して上位3項目に変化はない（図40）。

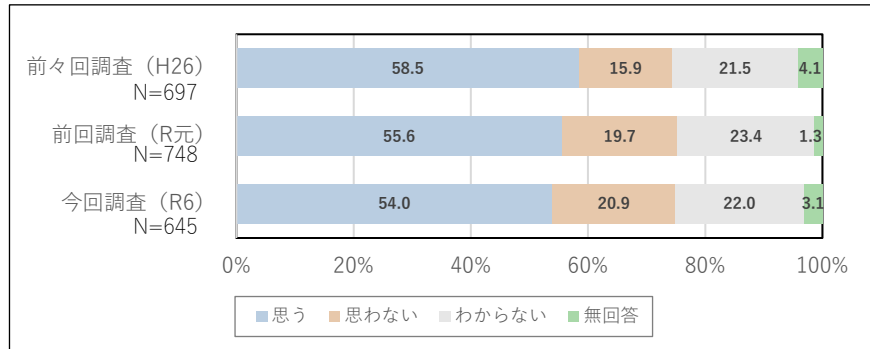


図39 住みよさについての回答

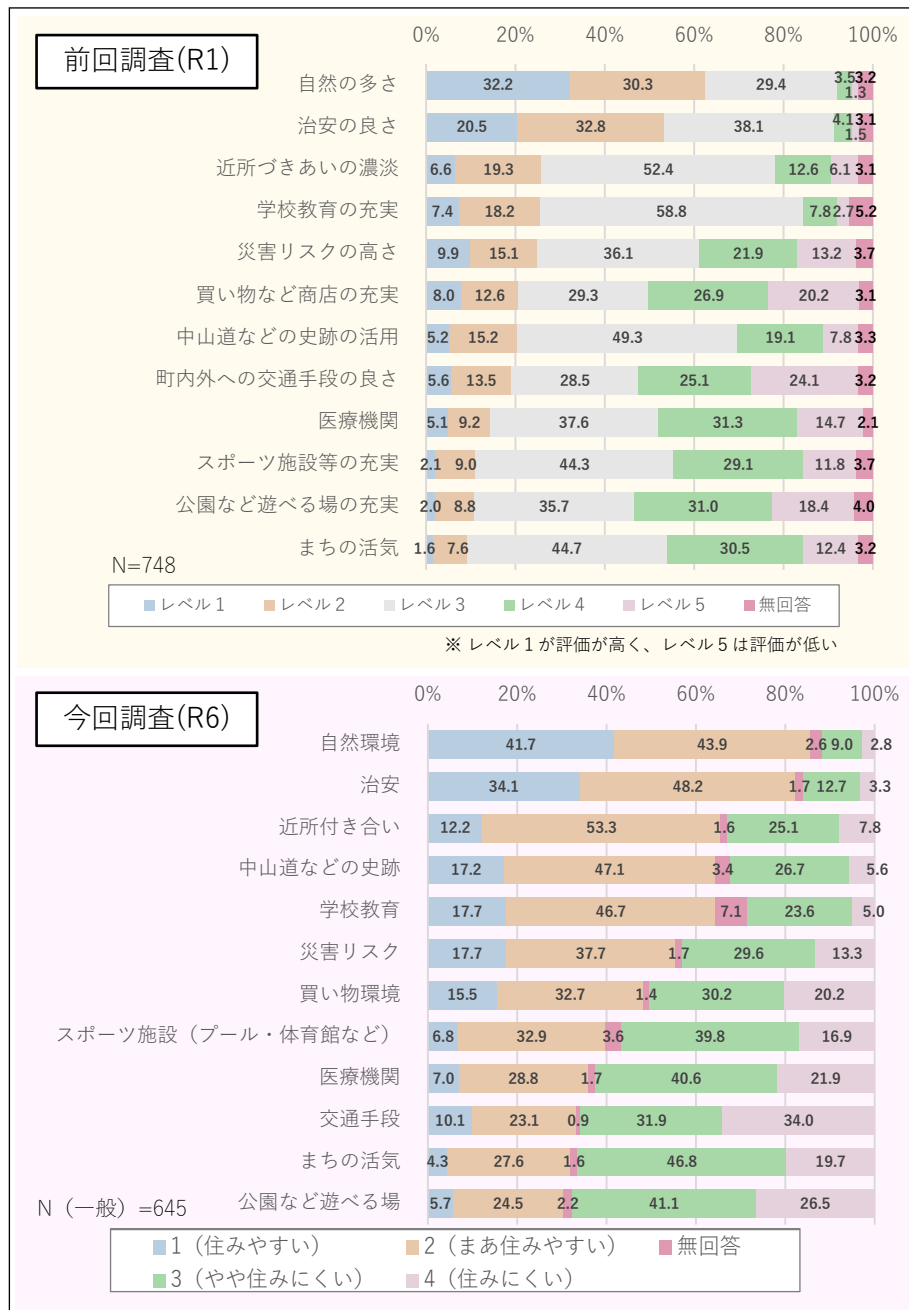


図40 住みよさに係る項目別の評価の比較

(2) 自慢できること (問 8、問 9、問 10)

御嵩町を自慢できるかについては、今回調査では「わからない」が36.0%で最も多く、「自慢できない」が29.1%、「自慢できる」が27.3%で、この順序については前回調査、前々回調査と同様となっている。しかし、回を重ねるごとに「自慢できる」とする回答が増加し、「わからない」が減少している。自分たちの町への関心が次第に高まるとともに、良さを認識する機会が増えている可能性がある (図 41)。

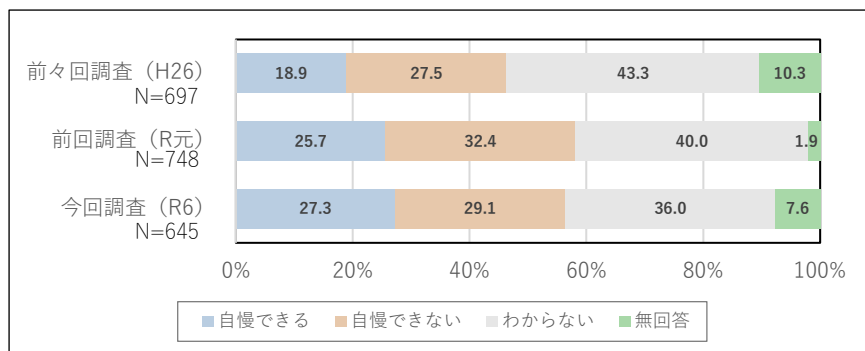


図41 自慢できるかについての回答の推移

(3) 定住の意向 (問 12)

御嵩町に住み続けたいと思うかとの問いに対しては「思う」は前々回調査以来しだいに低くなっており、この10年間で13.5%低下した。住み続けたいと「思わない」と「わからない」は概ね横ばいであるものの無回答が増加する結果となっている (図 42)。定住に対する訴求力が低下している可能性がある。

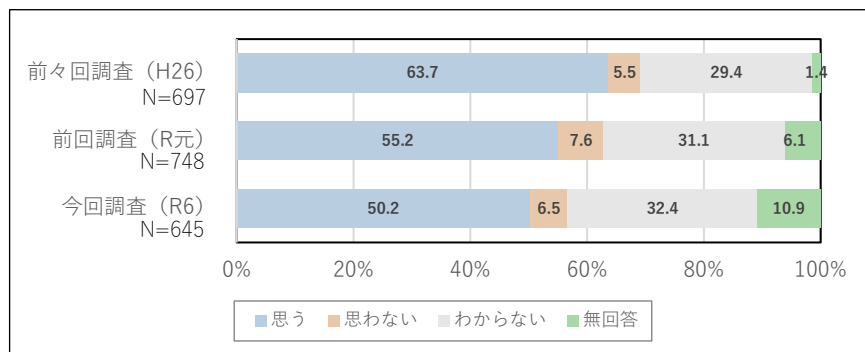


図42 定住の意向の推移

(4) 分野別の満足度・重要度（問 13、問 14）

町の施策について前回調査と比較すると、全般的に重要度に対する認識が高くなっている（図 43 において矢印 \rightarrow が上向きに傾いているものが多い）。

満足度が低く、重要度が高いと考えられている項目は下記のとおり。

- 産業関連 : 「商業環境の整備」、「雇用の確保」、「農業者の育成」
- 交通関連 : 「公共交通機関の充実」、「生活道路の整備」
- 安全・安心 : 「防犯体制の整備」
- 健康医療関連 : 「医療機関の充実」
- 行政運営 : 「効率的な行政運営」

また、前回調査と比較して満足度が低下した施策として、「医療機関の充実」、「観光の振興」、「防災に対する体制強化」、「防犯体制の整備」、「公共交通機関の充実」、「公園や緑地の整備」、「商業環境の整備」、「雇用の確保」、「生活道路の整備」がある。

他方、満足度が上昇した施策は、「上水道・下水道の整備」、「文化施設の整備」、「中山道をはじめとする史跡などの整備」、「保健サービスの充実」、「自然環境の保全」、「ごみ減量、リサイクルへの取組」である。

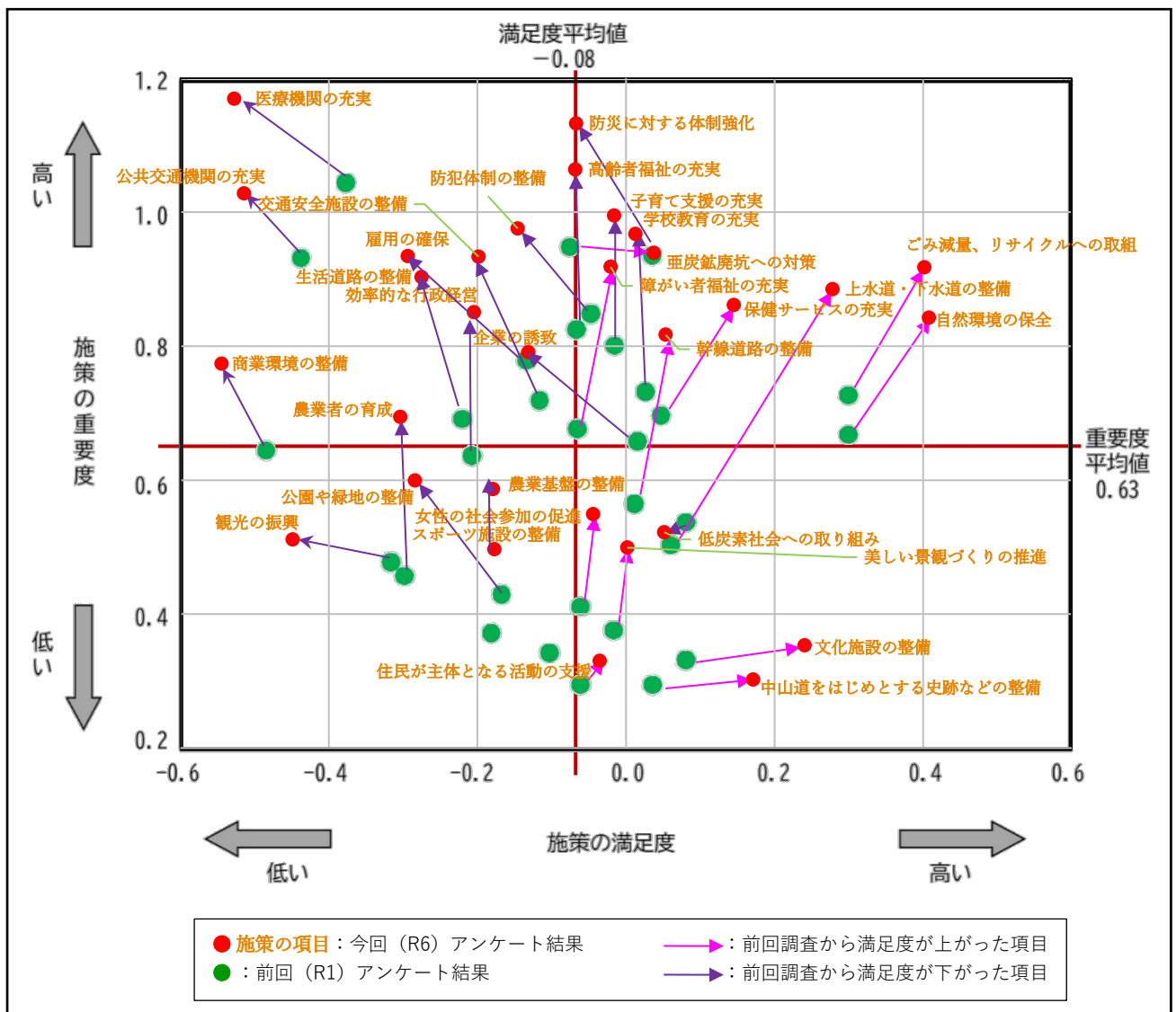


図43 町の施策に対する重要度と満足度の推移

(5) 日常生活や地域で取り組んでいること (問 15)

日常生活や地域で取り組んでいることについては、「日ごろから健康増進に取り組んでいる」、「男女は平等であると意識し、仕事や家事に取り組んでいる」、「エネルギーの節約

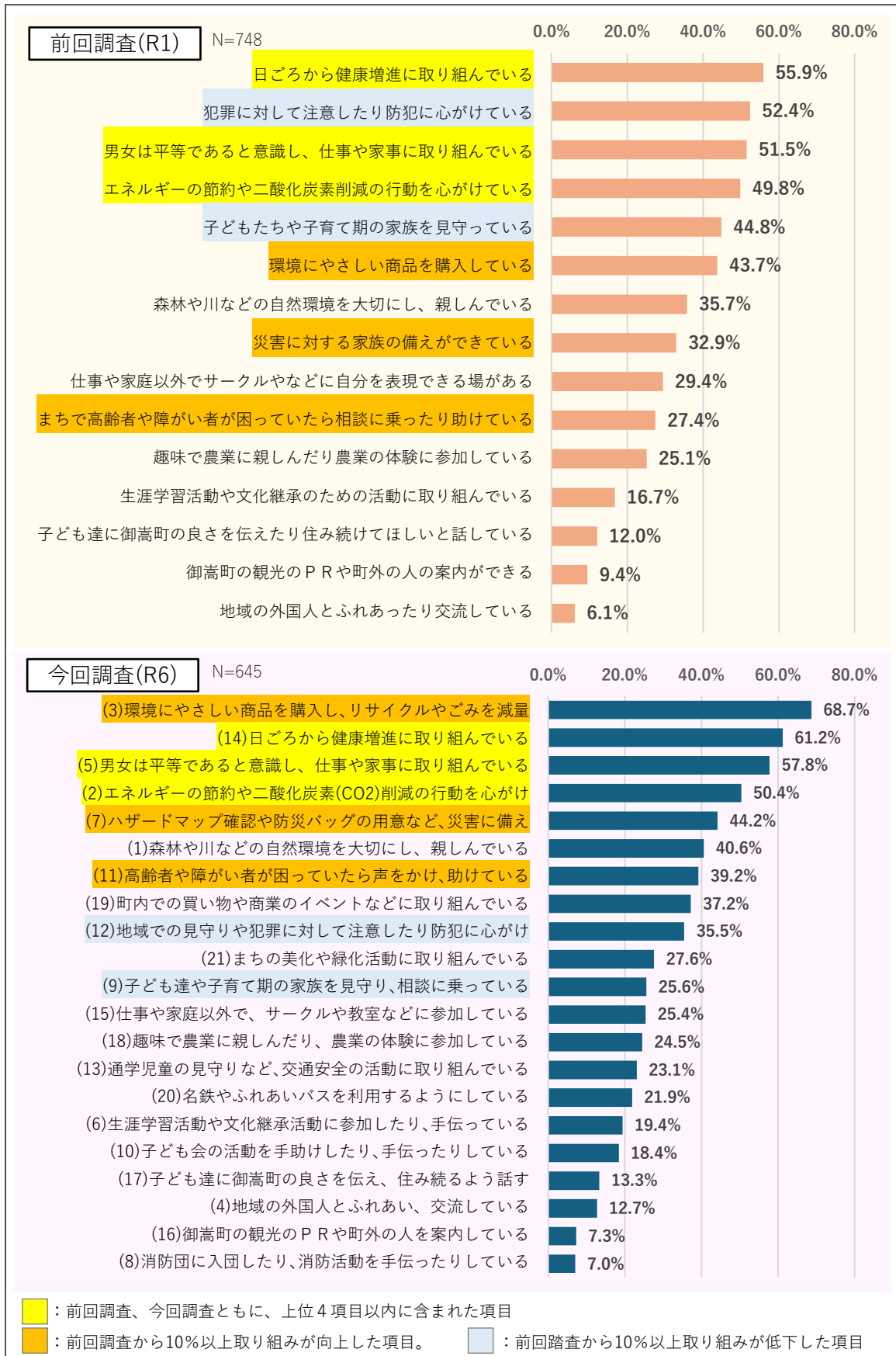


図44 日常生活や地域で取り組んでいることの比較

や二酸化炭素減の行動を心がけている」が前回調査から続いて上位4項目以内に含まれている。

また、「環境にやさしい商品を購入し、リサイクルゴミを減量」、「ハザードマップ確認や防災バッグの用意など、災害に備え」、「高齢者や障がい者が困っていたら声をかけ、助けている」は、前回調査と比較して10%以上取組が向上した一方、「地域での見守りや犯罪に対して注意したり防犯に心がけ」や「子ども達や子育て期の家族を見守り、相談に乗っている」は、10%以上の取り組みが低下している（図44）。

（6）子どもや若い人たちにとって住み続ける魅力（問16）

子どもや若い人たちにとって住み続ける魅力については、魅力があると「思う」が微増となっているが、「思わない」はこれを上回って5%ほど増加している（図45）。

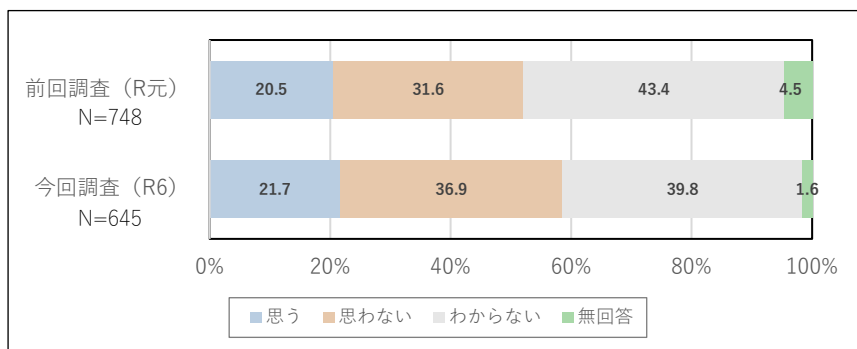


図45 住み続ける魅力があると思うかの推移

（7）ほかの町の人から見た御嵩町（問17）

ほかの町の人から見て「住んでみたい町」、「訪れてみたい町」というイメージを持っていると思うかについては、今回調査では「思う」が9.0%で前回調査から微減となっているが、「思わない」は6.5%増加して54.6%となって半数以上となった（図46）。

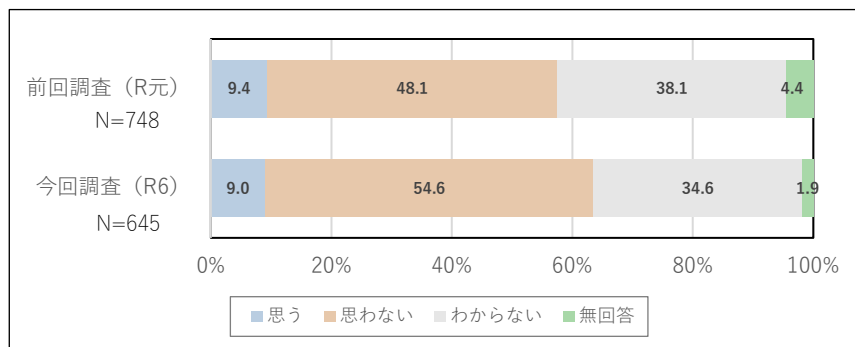


図46 御嵩町が「住んでみたい町」、「訪れてみたい町」というイメージと思うかの推移

(8) 定住や移住促進のための方策（問18）

御嵩町に若い人たちが住み続けることができたり、住む人を増やしたりするためには、今後どのようなことに力を入れるべきかについては、前回調査と今回調査ともに上位5項目が「子育て支援・子育て環境の充実」、「福祉や医療機関の充実」、「買物の利便性の向上」、「雇用の場づくり」、「公共交通の維持・充実」となっており、傾向に大きな変化は見られない（図47）。

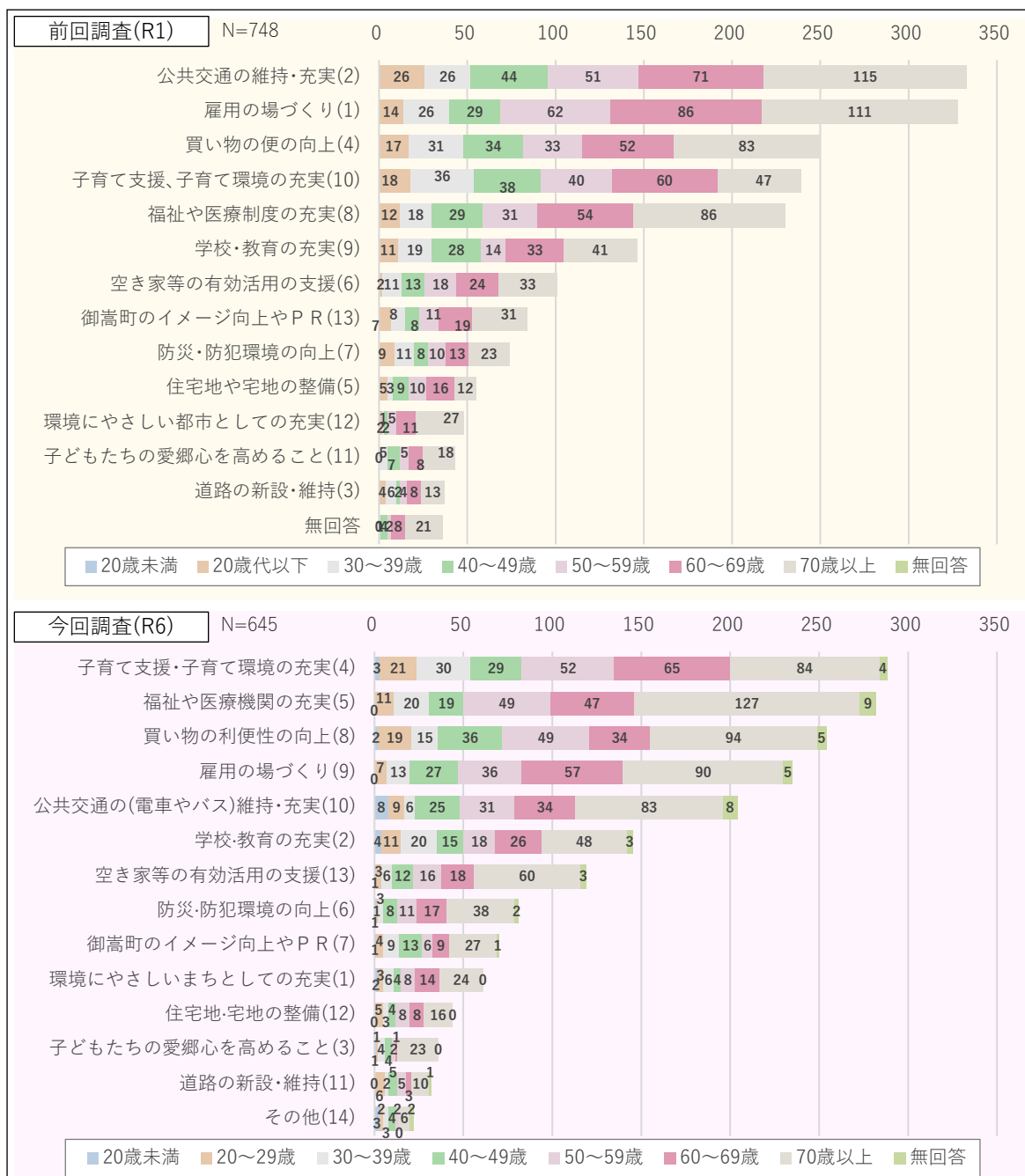


図47 定住や移住促進のため力を入れるべきことの比較

(9) 若い人たちが暮らしやすく、夢が持てるために必要なこと（問19）

高校生など若い人たちが暮らしやすく、夢が持てるようになるには、どのようなことが必要だと思うかについては、最上位が「就職することができ生活が安定すること」、「若い人たちが楽しむことができる施設やイベントがあること」、「進学した時に奨学金などの支援があること」の順で前回調査と今回調査で同様の結果である。全体の傾向に変化はない（図48）。

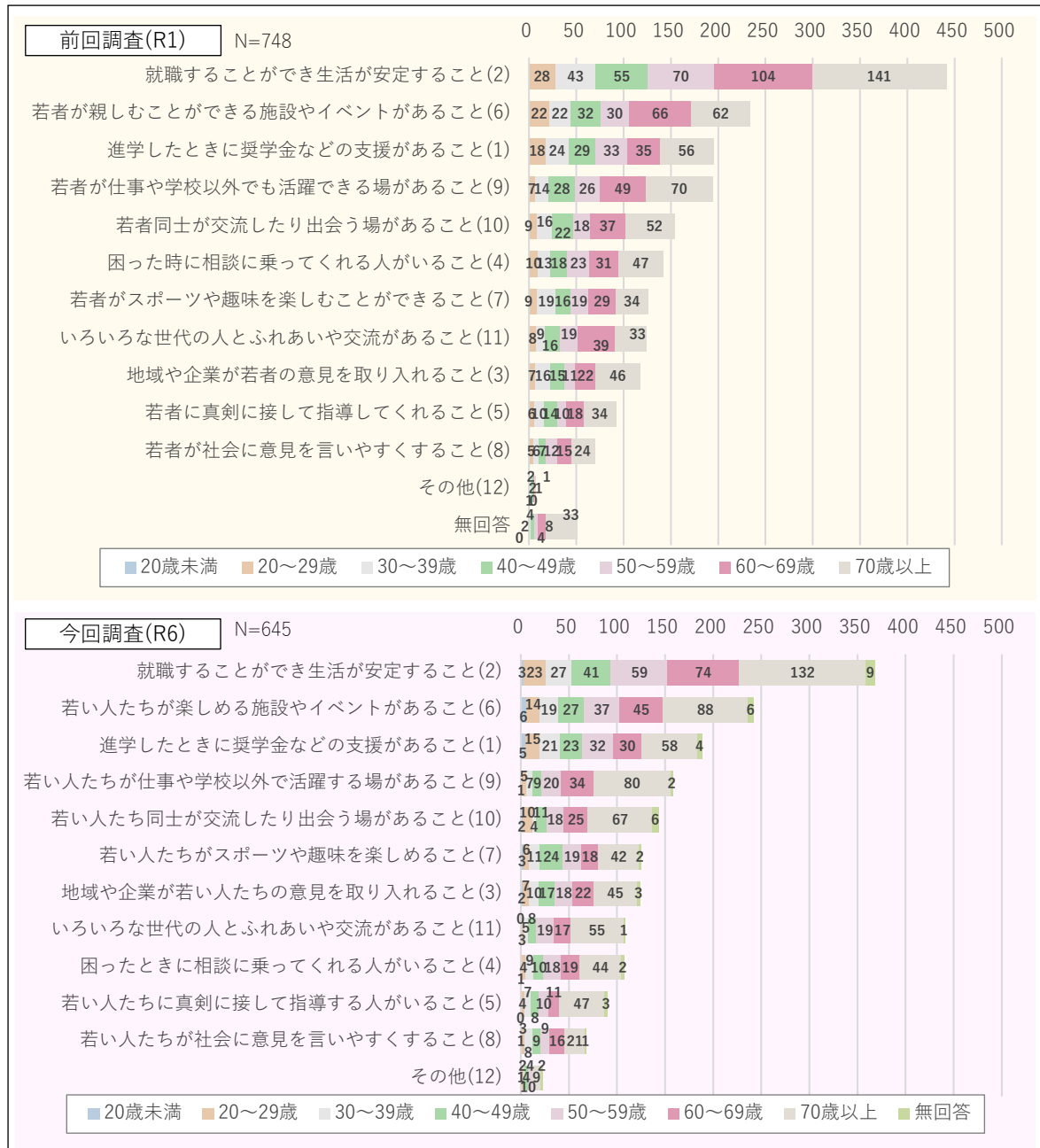


図48 高校生など若い人たちが暮らしやすく、夢が持てるようになるに必要なことの比較